



# 天満宮

題字／後西天皇御宸筆

特集

- ◆ 連綿と受け継がれてきた社殿を後世に  
千百二十五年半萬燈祭に向けて  
重要文化財御本殿廻廊の檜皮御屋根葺き替え工事始まる
  - ◆ 明治維新一五〇年と北野天満宮  
当宮に残る幕末ゆかりの品々
- ◆ 天神さまと私
- 作詞家 松本隆

日本文化の中心地、京都

その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

## 北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天曆元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに將軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあつて、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖 風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与え続けています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



### 【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居（北野）で捉えたマーク  
（平安京については裏面参考）

表紙写真 梅風講社の隆盛を祈願する梅風祭にて八乙女舞奉奏

例年3月25日は崇敬者で組織される梅風講社（小石原満講社長）の隆昌と講社員の無病息災を祈願する梅風祭を斎行する。御神前ではおすべらかしの髪に巫女装束を身にまとった八乙女が天神様へ優雅な鈴舞を奉納する。



葺き替えが始まった重要文化財東西廻廊御屋根

今年も若葉萌える新緑の季節となりました。境内西側にあります史跡「御土居」の木々も瑞々しく芽吹き新しい息吹を感じることができ、ご参詣の皆様にはあらためて日本の四季のすばらしさを実感していただいていることと存じます。

さて、本年は東京へ奠都された明治維新からちょうど百五十年となります。アヘン戦争で清国が敗れ、我が国へペリー率いる黒船が来航し欧米列強の軍事・経済力の脅威に曝され、二百年以上にわたる鎖国が終焉しました。国内外が激動する情勢下に明治政府が樹立し、大きな時代の変換期となり日本が世界に向かって立ち上がっていく時代に、菅公の和魂漢才の精神は、明治期には和魂洋才ともなり明治政府の基本方針である「五箇条の御誓文」第五条の「知識を世界に求め大に皇基を振起すべし」とともに日本の新理念となり、近代国家が建設されました。

幕末・明治期においても皇室をはじめ維新の原動力となった各方面の人々からの当宮への信仰は篤く、皇女和宮の参詣、孝明天皇により北野臨時祭（勅祭）の再興、また薩摩の島津斉彬・久光の父である斉興から二基の金燈籠、長州藩から狛犬一對、会津藩士による徳川慶喜の信任が厚い新門辰五郎の石鳥居および常夜燈、維新勤王隊の丹波国山國隊から石燈籠、北海道開拓の先覚者の松浦武四郎から北辺地図の大鏡が奉納されています。立場はそれぞれあるでしょうが各々が天神様を心の拠り所として信仰し、敬虔な祈りを捧げ、願を掛けられていたことが伝わってきます。天神信仰が全国へと伝播し脈々と受け継がれてきた信仰の有様をさらに継承・発展させ百年・二百年先を見据えた天神信仰の益々の発揚に着手するため、その一つとして現社務所の地に儀式殿（仮称）の建設を予定しております。混沌とした国難の現代。近年徐々に失われつつある古來受け継がれてきた日本人の心・精神を取り戻すべく、菅公が生涯一貫された「誠の心」を全国に伝えて参りたく存じます。

愈々、菅原道真公千二百二十五年式年大祭「半萬燈祭」（二〇二七年）まで十年をきりました。古くより菅公薨去後五十年毎に大萬燈祭、その中間の二十五年に半萬燈祭と称し最も重要な式年大祭を斎行して御神慮をお慰め申し上げ、併せて連綿と受け継がれてきた御社殿をはじめ様々な文化財を後世に継承するため、御社殿の大修理および境内維持整備等を行って参りました。

今回は重要文化財である東西廻廊をはじめとする御屋根檜皮葺き替えが主な修繕となっております。現在の御屋根は今を去る昭和五十年に葺き替えたもので、すでに四十三年が経過し、必要により部分的に小修繕を施して来ましたが、近年檜皮の腐朽損傷の程度も極めて著しく最近では所々雨漏りを生じておりました。その様な状況下で、昨夏に来襲した台風十八号と二十一号の被害により該当する建物の御屋根根から檜皮が捲れ上がる天災も加わり、その処置を京都府文化財保護課と相談致しました。一刻も早い復旧が必要と見做され、経費の半分を公費よりご負担戴き、半分は天満宮講社を始めとする氏子崇敬者の募財を以て修繕工事を早める事となりました。

天神さまの御守護のもと、尊い御神縁を結ばれておられますご信仰深き皆様と共に、この大仕事を完遂し、御社殿の保存・継承および菅公の広大な御神徳の益々の発揚のため、趣旨ご理解ご賛同いただきご奉賛賜りますようお願い申し上げます。

北野天満宮

宮司 橘 重十九



# 天神さまと私

作詞家 松本 隆さん



松本 隆氏

今号は、半世紀にわたって二千百曲以上の作品を世に送り出し、今も意欲的な活動を続けておられ、昨春秋、紫綬褒章を受章された作詞家、松本隆氏をお招きし、橋重十九宮司と対談して頂いた。  
(構成・編集部)

**宮司** 昨春秋、紫綬褒章をお受けになりました。遅ればせながら、おめでとうございます。

**松本** ありがとうございます。

**宮司** 改めまして受章された感想をお聞かせ頂ければと思います。

**松本** 僕は何の組織にも属さないロックバンド出身の一匹狼のようなものですから、ずっとそんな褒章には縁がないと思っていました。ですから頂けることが決まった時、自分の作品が自分をつくってくれたというか守ってくれたんだと、そんな風に思いました。「松本さんは、よく組織に属していない、といわれるけれども大衆というのが一番大きな組織じゃないですか」と、人から言われたんですよ。

**宮司** そうですよ、まったく。大衆に愛される作品をあれだけたくさん、お創りになった証が紫綬褒章の受章だと思えます。

**松本** 確かに大衆の力は、私がどこかの企業に属しているかどうかより断然大きいですから、本当にありがたいことだと感じました。

**宮司** また、このたびは昨秋竣功した文道会館の前に立派な松を奉納して頂き、御礼申し上げます。楼門に「文道大祖 風月本主」の扁額を掲げていますが、あれは平安時代の歌人にして文章博士の大江匡衡が、学問や詩歌の祖神として菅原道真公（菅公）を称えた言葉であり、以後ずっと、周囲からそう言われ続けてきた方でした。学問にすぐれ、とくに松本先生ともご縁のある詩歌の方でも大変拔きんでた方です。文道会館は、そんな菅公の精神を広く内外に発信していく基地として建てましたので、松本先生のような長く大衆に愛され続けておられる、まさに文道会館にぴったりの方に奉納して頂いた松を植えることができ、感動しております。

**松本** そんなに言って頂いて恐縮です。いろいろご縁があったものですから。

## — 松本家の家紋と同じ三蓋松に誘われて初詣

**宮司** ところで、松本先生と当宮とのご縁のきっかけは何だったのでしようか。

**松本** 一昨年と昨年にまたがって、友人と大晦日、どこかに初詣に行こうか、ということになり、京都

松本隆（まつもと たかし）氏略歴  
1949年、東京・青山生まれ。慶応大学在学中からバンド活動を開始。バンド解散後、作詞家に専念し、太田裕美『木綿のハンカチーフ』、寺尾聰『ルビーの指輪』、松田聖子『赤いスイートピー』、KinKi Kids『硝子の少年』など数々のヒット曲の作詞をし、日本を代表する作詞家の一人として知られる。昨春秋、紫綬褒章受章。京都市在住。



ご奉納の文道会館前御庭

の神社を色々探したんです。僕の家の家紋が、あまり多くない三蓋松だったので、三蓋松にゆかりの神社をネットで探したら北野天満宮だったのです。何か呼ばれたような気がして男三人で初詣をしました。その後、友人の絵描きに誘われて吉野へ行き、さらに知り合いから「松本さん、熊野にいきましょう」ということで、熊野の火祭りにも行きました。考えてみると、北野・吉野・熊野と三つとも野がつくという言葉遊びのようなことがあって、少し不思議な気持ちになりました。ご縁を感じたのです。

**宮司** 当宮とのご縁のきっかけが三蓋松と聞いて驚きました。当宮の社紋、天満宮といえば梅だと思われませんが、実は松の方が上位なんです。松の信仰が当宮の原点なんです。というのは、「北野の松原にわが御霊を祀れ」という菅公のご託宣があり、一夜にして千本の松がここに飛んできて、それが北野天満宮の創建となったのですから。一の鳥居を入った所に影向の松（毎年節分までの三冬の間に初雪が降ると天神さまが降臨され雪見の歌を詠まれるという伝説がある）があり、今も毎年、天候を見ながら初雪祭を斎行しております。松イコール神なんですよ。

**松本** そうなんです。ちなみに私の姓も松本であり、何だか松づくしのようです。

**宮司** 先ほど本殿に昇殿参拝して頂きました。何か天神さまについて思われていることがありますか。

**松本** 皆さんと一緒に学問の神様、受験の神様、言葉の神様と思っています。政治は全然駄目の僕からみると、芸術家であって政治家であったということはすごいことだと思います。また、その政治家だった故に追われたのでしょうか、しかし、それで神様になられるということはすごい人だと思います。

**宮司** 私は芸能界の動きは疎いのですが、先生は長きにわたって作詞家をされています。作詞家になられたきっかけをお聞きかせ下さい。

**松本** 元々僕は「はっぴいえんど」というロックバンドをしていました。ロックといえば英語の歌というのが常識になっていた時代ですから「日本語で歌わなければ本物にならない」と僕が提唱し、細野晴臣さん、大滝詠一さん、鈴木茂さん、そして僕の四人で「はっぴいえんど」を結成したわけです。いつでも日本語でロックというのは前例がないので「松本、お前が詞を書いてくれ」と細野さんに言われて書き出し、やってみたら結構評判が高かったのです。そしてバンドを解散した後、「何をやるのか？」と考える間もなく詞を書くことになり、とんとん拍子に作詞家になったようなわけです。

### —これまで世に送り出したのは二千百曲以上

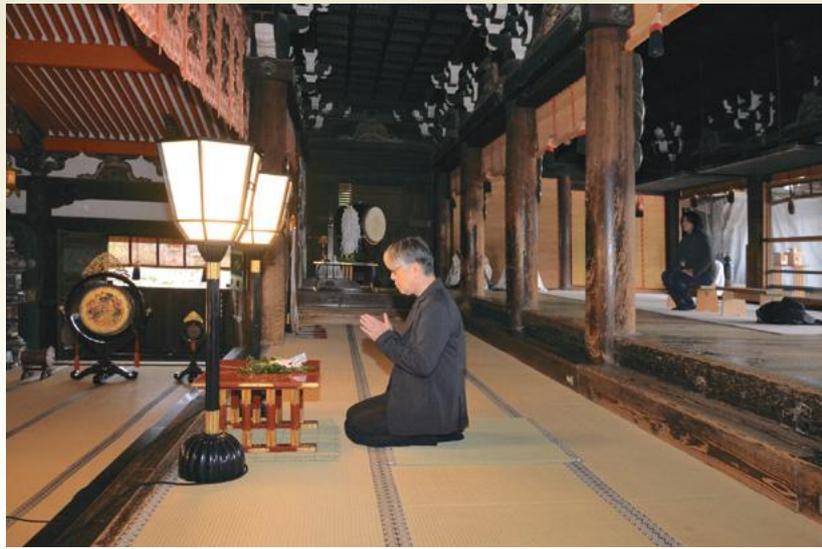
**宮司** 私が若い頃から聞いてきた歌が、先日改めて作詞家の名前を見て、先生の名前があまりにも多いので驚きました。いったい、何曲ぐらい創られたのでしょうか。

**松本** 自分でも分からないんですが、二千百曲以上だと思います。

**宮司** すごい数ですね。これは雑誌に書かれていたことなのですが、作品には「風」がよく使われているとのことですが。

**松本** 深い意味はなく、ただ好きなんです。止まっているものよりも動いているものが好き、目に見えなく動いているものが好きなんです。それが「風」だったんですよ。もう一つ、「水」も好きですよ。水も器によって形が変わるけれども水の本質は変わらない。高い所から低い所へ流れる。低い所にいるのが人間の本質のように思います。それで「風」も「水」も好き、もちろん「花」も好きですよ。

**宮司** 菅公が都から落ちて行かれた時に詠まれた「東風吹かば……」の梅の歌はあまりにも有名ですが、



正式参拝



もう一首「桜花ぬしを忘れぬものならば 吹きこむ風にことづてはせよ」という歌があります。

**松本** 西行も好きですし、業平も好きです。芭蕉も良寛さんも……。みんな共通しているのは都落ちするんです。僕の生き方、本当は旅人が理想なんですけど現代はそんなわけにはいきません。で、生まれ育つたのは東京ですけど引き払って関西に来て、今、京都と神戸に住まいをもつて行ったり来たりしています。

**宮司** 若い頃、京都によく来られて「いつか京都に住みたい」というようなことが何かの雑誌に載っていたそうですが。

**松本** 「はっぴいえんど」をやっていた頃、当時フォークの神様と言われた人、岡林信康さんが同志社大の出身だった関係で、同志社と京大の学生が企画するコンサートに呼ばれて月に二回から三回は京都へ来ていました。同志社の階段教室や京大の西部講堂、それに今、ロームシアターといっている京都美術館などで演奏をやりました。待ち時間があると京都の町をぶらつき、この辺りに住みたいなと思う所が潜在意識の中であり、ずつといつか住みたいと思っていました。願っていると叶うものなんです、その住みたいと思っている所に空き室が見つかり、東京を引き払ったんです。

**宮司** 実際に京都にお住まいになった感想はいかがですか。

**松本** 若い世代、とくに学生が東京などと比べて元気がいいと思います。たぶん、歴史的にずっとそうでしょうけど、古い人たちと新しい人たちがあまり喧嘩もせず溶け合っている気がします。もう少し違った言い方をしますと、伝統を重んじる古い文化とちよつとパンクというか、形にはまらない若い文化が融合している感じがします。今の東京は古いものも大事にしないし、最先端も大事にしないんです。

**宮司** それが東京を引越した理由なのですね。

**松本** ファーストフードみたいなものばかりになった東京がつまらなくなりました。東京生まれでするので残念でなりません。あつちこつちビルを壊して巨大な穴が空いており、とても住みやすい街ではないですよ。考えてみると、僕が高校ぐらいからずっと工事をしているような気がして、永久に終わらないような気がします。そうした意味からいえば東京って何か不思議な街ですけど。

**宮司** 一昨年の第一回「京都日本フェスティバル」では上七軒歌舞練場で「松本隆の世界／風のコトダマ」(古事記などの古典をもとに松本氏が創った言葉を女優の若村麻由美さんが朗読し、クミコさんが藤倉貴生氏の横笛などで歌った)という素晴らしい舞台をやって頂き、先生のトークもあり大好評でした。改めて御礼申し上げます。

**松本** 「風のコトダマ」は、笛吹きの名門の家のお子さんの藤倉貴生さんが古典の楽器を使って作曲し、僕の詞に合わせるんです。三味線とか琴とかで融合してくれるのは藤倉さんです。始めてから、かれこれ十年ほどになるんですが、だんだん浸透してきて今年には能登と京都と東京、三回ほどやるそうです。若村麻由美さんの朗読は、演技力がある人だけに素晴らしいですよ。

**宮司** 能登は私の出身地ですけど、いつされるんですか？



自身のこれまでの活動なども語られた



宮司と対談される松本氏

松本 七月です。若村さんは無名塾（仲代達矢氏主宰の俳優養成所）の出身者なんです。能登に無名塾の合宿所があり、お返しをしたいという彼女の気持ちです。僕も参加します。

宮司 コトダマという言葉に大変惹かれます。万葉集にも「言霊の幸ふ国」と出てきますが、やはり日本は言葉の霊力で幸福をもたらす国だと思います。

松本 あの舞台では鳥肌がたつような興奮を覚えることがあります。ヒット曲をやっている時は、すぐ消えてしまうのではないかと思っていました。自画自賛になるようで恐縮ですが、もうすぐ五十周年になるのに僕の歌、不思議と古くならないんです。先日、NHKテレビで僕の特集をしました。十代、二十代だった人が今、五十代、還暦を迎えた人もいらっしやるのにまだ青春の歌が歌える。それが全然おかしくないんです。

宮司 それはすごいですね。やはり先生の詞には魂が込められているんです。だから何十年経っても色あせないんです。私たちが唱える祝詞の最後は「カシコミ、カシコミ申す」です。あれは自然に対する畏敬と感謝と畏怖を表す言葉・言霊なんです。日本は地震や台風などの自然災害の多い国です。しかし、それを裏返せば自然の恵みなのです。だから自然と対決せずに共生する道を歩んできました。先生の詞には深いところで、そのようなものがあるのではと思っています。失せることのない日本語の素晴らしさを先生が出されているからこそ、いつまでも大衆に歌い継がれているのだと私は思っています。

松本 ありがとうございます。ところで、最近、加山雄三さんのテレビ番組にゲストで出演しましたが、加山さんは八十歳、僕が六十八歳ですけど、二人とも高校生みたいな感じで話せました。もう老人像は昔と変わったと思います。

### ―シューベルトの曲に詞をつける

宮司 今後の活動をお聞かせ下さい。

松本 日本の古典とのコラボをしていくのと、もう一つ、西洋の古典もやっておりますよ。僕の好きなシューベルトの曲に詞をつけることです。先ほど言った加山さんの番組でもその中一曲だけ披露しています。『トツペルゲンガー』という題ですけど、失恋した男が女の人が住んでいたアパートの外に佇んでいるんです。女の人は去ったけれど家はそのまま残っている。隣にもう一人男がいて、覗き込む自分と同じ顔をして嘆き苦しむ、といったような詞なんですけど、歌手が歌うのを聴いて僕が創った詞なのに鳥肌の立つ思いがしました。たぶん、聴いたことのないような世界に誘ってくれると思います。実はその録音を北山のコンサートホールで行ったことを自分としては評価してらんですよ。

宮司 先生の京都発信のお仕事と捉えさせて頂きました。偶然にも今晚、放映ということなので、ぜひ聴かせて頂きたいと思います。

松本 それと昨年、僕としては十五年ぶりにアルバムを出しました。クミコさんの『デラシネ』ですけど、レコード大賞の優秀アルバム賞を頂きましたので、まだいけるような気がしています。

宮司 当宮は中世に連歌が盛んに行なわれた縁で、今日も連歌の会の催しが行なわれています。菅公と縁の深い「曲水の宴」も和漢朗詠という当宮仕様で復興しましたし、書道の上達を祈る新年の書初め「天満書」から始まって一年中、様々な神事・催しを行っています。また機会があり、お参り頂ければうれしく思います。本日は大変ご多忙中、ありがとうございます。

連綿と受け継がれてきた社殿を後世に

千百二十五年半萬燈祭に向けて国庫補助を受け、  
重要文化財廻廊の檜皮御屋根葺き替え工事始まる  
広く崇敬者の募財を呼びかけ



菅公千百年大萬燈祭記念事業として美しく葺き替えられた国宝御本殿御屋根（平成14年）

昨年秋の台風で檜皮葺きの屋根が剥がれるなど、甚大な被害が出ていた東廻廊（重文）の修理が国庫補助を受けてこのほど始まった。西廻廊（同）も傷みが激しいため引き続き修理が行われるが、菅公千百二十五年式年大祭「半萬燈祭」の記念事業として位置づけ、広く参拝者に募財を呼びかけている。

## 菅公慰霊に見る「精神の継承」と 御社殿造営に見る「形の継承」

北野天満宮では古くより菅公の御神徳を未来へ繋ぐ式年大祭を、五十年毎に「大萬燈祭」、その中間の二十五年に「半萬燈祭」と称して斎行してきた。

古来連綿と受け継がれてきた萬燈祭は、古式ゆかしく祭祀の厳修に努めることはもとより、その式年にあわせて御社殿の造営修復を執り行うのが先人からの慣わしであり、次の菅公千百二十五年式年大祭「半萬燈祭」では、重要文化財の東西廻廊他御屋根葺き替えが主な修繕となる。

この萬燈祭において肝要なのは、菅公慰霊に見る「精神の継承」と、御社殿造営に見る「形の継承」が一体となり斎行される重儀であるという事である。

祭祀厳修を通して、菅公精神である「和魂漢才」「誠の心」を次世代へ繋ぎ、御社殿修復を通して、平安京から連綿と続く「北野」の歴史・文化・伝統を未来へと伝えていく重要な使命を帯びている。すでに次の「半萬燈祭」斎行に向け、様々な整備を進めているが、御社殿の御屋根葺き替えは古来萬燈祭に欠くことの出来ない大事業として受け継いでいる。

## 平安京の時代から続く景勝地「北野」を再現

現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により秀頼公が慶長十二年（一六〇七）に造営された桃山文化の美を誇る一大建築群であり、八棟造と称される国宝の御本殿を始め、それに連なる東西廻廊・三光門・後門・透塀等の多くの建物が国の重要文化財に指定されている。

国庫補助を受けての  
御屋根檜皮葺き替えの募財活動を承認

天満宮講社理事会開く



ご挨拶される天満宮講社会長千玄室裏千家大宗匠 名代  
村上利行裏千家執事

北野天満宮講社（会長千玄室裏千家大宗匠）の平成三十年度理事会が四月六日午前十一時半から文道会館に約百四十人が出席して開かれた。

物故関係者に対し黙祷を捧げた後、村上利行裏千家執事が「式年大祭に当たっては境内の整備を行うのが慣例であり、来る二〇二七年齋行

の千百二十五年半萬燈祭では、国庫補助を受けての重文の東西両廻廊ほかの御屋根檜皮葺き替えが主な修繕である。台風被害で一刻も早い復旧が必要となっており、当講社の事業として皆様のご賛同を頂き、広く募財活動を行いたい」との千会長の挨拶を代読された。

宮司も挨拶の中で「東西両廻廊の御屋根葺き替えは、台風被害で七年ほど工事を早めて行うことになった。何卒ご賛同を賜りたい」と要望した。

新役員の紹介の後、議事に入り平成三十年度予算案や東西両廻廊ほかの檜皮屋根葺き替え事業に対する募財活動（会員への奉賛金依頼）を行うことなどを承認した。

なお、事務局側から募財奉賛金については、一年間「指定寄附金」に指定され、ご奉賛頂いた金額は「寄附金控除」として所得から控除することができ旨の報告が行われた。

中でも東西廻廊は国宝の御本殿の南側にあり、三光門（重文）とともに桃山期の建物として代々受け継がれ、天神信仰発祥地としての重厚な雰囲気を見せている。

この現在の御屋根は、去る五十年前に吹き替えたもので、その後必要に応じて部分的に修繕を施してきたが、近年檜皮の腐朽損傷の程度が極めて酷く、最近では雨漏り等も生じていた。

そのような状況の中、昨年の台風十八号と二十一号によって境内が甚大な被害を受けた折、廻廊に至っては檜皮葺き屋根が大きく剥がれ、新聞にも写真入りで大きく報道された。京都府文化財保護課の調査の結果、一刻も早い修理が必要との結論に達し、ビニールのシートをかぶせてしのいでいた東西廻廊の修理がこのほどから始まった。

過去の式年大祭では、連綿と受け継がれてきた社殿を後世に遺すための修繕が様々行われており、来る二〇二七年に齋行の千百二十五年半萬燈祭では、この東西廻廊の檜皮屋根葺き替え工事を主たる記念事業と位置づけているが、御屋根のみならず半萬燈祭に向けた境内整備は随時進めており、平安



被害を受けた檜皮葺の御屋根

京の天門に祀られ、千有余年の長い歴史を継承する景勝地「北野」を現代に再現していく方向である。

概ね五年計画で総事業費は三億六千万円（うち半分は国庫補助）。莫大な費用を要するため、すでに社務所前に趣意書を掲げて参拝者への募財を開始しているが、今後も崇敬者や各方面に広く呼びかけていく。

国庫補助を受け、総事業に対する募財活動を五か年計画にて執行



檜皮葺御屋根葺き替え始まる（御土居展望所より）



覆いがされた重要文化財東廻廊



## 北野天満宮と明治維新一五〇年

幕末思想家たちの精神的支柱となった菅公精神「和魂漢才」  
御本殿に納められる薩摩藩主斉興公御奉納の金燈籠はじめ  
幕末ゆかりの品々が数多く今も残る境内



当宮に残る和魂漢才之碑

本年は明治改元から一五〇年を迎える節目にあたり、京都ではそれに伴う様々な行事が催されるなど明治維新に注目が集まっているが、この偉業を成しえたその背景に菅公精神が深く関わっていることは、すでに人口に膾炙するところである。

明治新政府が「和魂洋才」というスローガンのもと、近代化へと進んでいったことはよく知られているが、その背景には、古く平安の世に菅公の提唱された「和魂漢才」の精神、即ち日本固有の精神を以て、外国の先進文化を消化し活用する、この精神が大きな原動力となったのである。

「和魂漢才」の精神は、今日の日本においても大変重要であり、大いに活用すべき考え方である。日に日に多様化する現代社会で、自国の文化や歴史に誇りを持ち、世界の多様な文化を採り入れる寛容さを持つことが、これからの国際社会の中で生きる我々に必要である。境内にはこの菅公精神を顕彰し後世に広く伝えるべく、嘉永元年（一八四八）に菅公の末裔に当たる東坊城聡長卿揮毫による「和魂漢才之碑」が建立されているほか、文久二年（一八六二）に長州藩が奉納した萩狛犬一対や江戸一の火消として活躍する一方、徳川十五代將軍慶喜公の信任厚かった新門辰五郎奉納の常夜燈、維新勤王山国隊奉納の石燈籠など、幕末ゆかりの遺物が多く残されている。（和魂漢才之碑については社報第十五号夏号参照）



長州藩奉納狛犬台座には文久二年壬戌之春三月に奉納の記録が残る

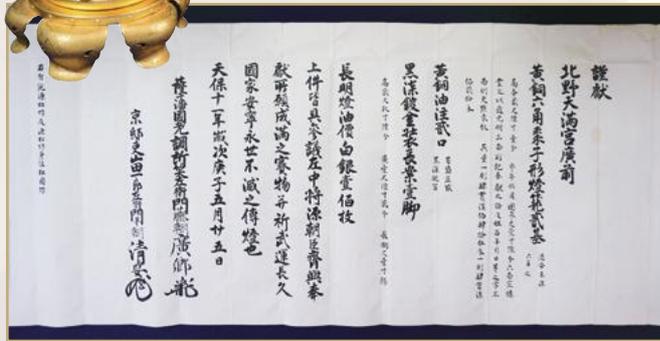


長州藩奉納狛犬

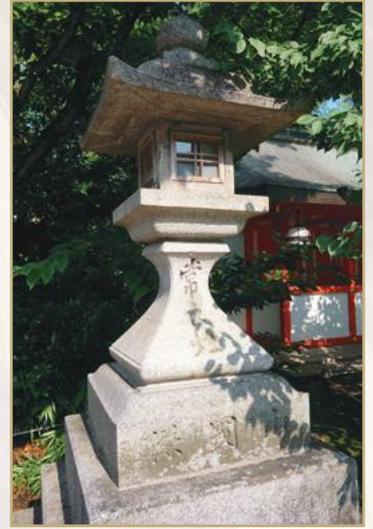




島津齊興公御奉納  
金燈籠一對



寄進状



山国隊奉納石燈籠

中でも、国宝御本殿内石の間に納められている薩摩藩島津齊興公御奉納の金燈籠は、代々受け継がれてきた宝物の中でも貴重なものの一つとされる。

この燈籠は、天保十一年（一八四〇）五月二十五日に薩摩藩十代藩主島津齊興公が御奉納された。黄銅六角棗子形で、雲文の透かしが三面に施され、十字の家紋と「天保十一年五月二十五日」の文字が刻されている。燈籠には併せて寄進状が付され、燈籠のほか黄銅油注式口、黒漆鍍金装の長案壱脚、永代燈油料として白銀壹百枚が奉獻されたことも記されている。

薩摩藩における天保十一年は、藩主齊興公のもと、家老の調所広郷が中心となって藩政改革に取り組み、それまで財政難という窮地に陥っていた同藩の財政事業が立て直しの兆しを見せてきた時期にあたる。奉納の背景には、そのような藩の内政事情もあり、天神様への神恩感謝、諸願成就祈願のために献上されたものと考えられる。付された寄進状には、薩摩國老調所笑左衛門藤原朝臣広郷の名を記し、薩摩藩としてこの燈籠を奉納するという強い意志が見られ、天神信仰に対する崇敬の篤さを表す貴重な歴史的史料と言える。

その他、文久二年（一八六二）三月に幕末尊王攘夷の急先鋒であった長州藩より奉納された狛犬一对は、境内表参道二ノ鳥居の左右にまつられ、元治二年（一八六五）に新門辰五郎が奉納した常夜燈は、参道一ノ鳥居横に今もその姿を残す。これら多数の寄進品は、幕末期においても、全国津々浦々に天神信仰が伝播し、朝野を問わず、また各々の立場はあっても、それぞれが天神様を敬い、精神の拠り所として信仰していたことを物語っている。

なお、現在開館中の宝物殿では、「北野天満宮と明治維新一五〇年」と銘打ち、金燈籠一对と寄進状を期間限定で特別公開する。（宝物殿特別公開 四月十日より六月三十日まで）



本殿石の間に納められる金燈籠の数々



新門辰五郎奉納の石燈籠

## 第一回 北野天満宮シンポジウム

# 天神信仰の成立 — 菅原大神から天神へ —

第一回北野天満宮シンポジウム「天神信仰の成立 菅原大神から天神へ」が三月十七日、文道会館に約五百十人の聴衆を集めて開かれた。

菅原道真公は死後、神として崇められて信仰が広まり、現在、天神を祭神とする神社は全国で一万数千社



天神信仰についてディスカッション

に上る。天神信仰はどのようにして生まれ、広まっていったかを探ろうというもので、竹居明男同志社大学名誉教授が基調講演した後、京都文化博物館の西山剛学芸員をコーディネーターとして太宰府天満宮の味酒安則禰宜、北野天満宮の橘重十九宮司がそれぞれ報告最後に竹居名誉教授も加わって話し合った。

### 太宰府天満宮 味酒安則禰宜の報告

味酒禰宜は「太宰府天満宮の創始と天神信仰の歴史」と題し報告。「私の四十二代前の先祖、味酒安行は菅家廊下の門弟で、菅公の左遷が決まると役職を朝廷に返上、菅公の二人の子どもを伴い大宰府に赴いた」と先祖との関係を述べ「太宰府天満宮は中国式の廟で始まり、その後、安楽寺として約九百年、神社となつて日はまだ浅い。本殿の中央真下が菅公の墓所。私の家も西高辻宮司の家も四代前まで天台宗の僧侶だった」と話し、室町時代は大内氏の庇護、戦国時代は連歌師でもあつた黒田官兵衛、幕末には平田篤胤といった各時代で様々な人の支援を受けて発展したことを紹介し「天皇家のご先祖以外で官幣社となつたのは、北野と太宰府しかない。同じ菅公を祀る神社だが、太宰府は、どちらかといえば菅公の御霊を慰める祭事・法業が多い。天神信仰は日本の社会現象、日本文化に大きく根差した信仰だ」と述べた。

### 北野天満宮 橘重十九宮司の報告

西山学芸員は「同じ菅公を祀る天満宮の両輪でも異なる点もみえた」と言い、味酒禰宜、橘宮司が、それぞれの神社の特徴を補足した。竹居名誉教授は「実在する人物から神になられた天神さんが、長い歴史の中で多様性、地域性を持ちながら全国に広がり、多くの人に信仰されている根底に菅公の人物があつたと思う。今回のテーマはぜひそれを」と言い、西山学芸員が「内容豊富なシンポジウムだった。天神信仰を深めるため、天神学構築のため二回目、三回目と開いてもらえればうれしい」と締めくくった。

続いて橘宮司が「百年かけて誕生した北野天満大神」



北野天満宮 宮司 橋 重十九



京都府京都文化博物館 学芸員 西山 剛氏



太宰府天満宮 禰宜 味酒安則氏



同志社大学 名誉教授 竹居明男氏

### 基調講演 (要旨) 天神信仰の成立

—さまざまなる「天神」と四つの「磁場」と—  
同志社大学名誉教授 竹居 明男

菅原道真公が延喜三年(九〇三)、九州大宰府で亡くなる  
と、その祟りではないかという出来事が次々に起こる。菅公  
追放の首謀者とされる藤原時平が三十九歳で死亡、藤原氏と  
の血縁関係の深い皇太子も二十一歳で急逝する。朝廷では菅  
公左遷の宣命を焼却し、右大臣に復し正二位を贈り、年号も  
延長に改元する。しかし、延長三年(九二五)には皇太孫も  
五歳で急逝。同八年、宮中清涼殿に落雷があり、廷臣数人が  
死傷、醍醐天皇も病床に伏し、三カ月後に亡くなる。

「右近の馬場に祀れ」との菅公の託宣が、京の多治比文子  
と近江比良宮禰宜の子にあり、天曆元年(九四七)六月九  
日、菅公を祀る建物が北野に建つ。北野天満宮の創建であり、  
菅公の祟りを鎮めるために建てられたのである。その怨霊  
神が様々なご利益のある善神に変わるきっかけは平安中期、  
一條天皇(在位九八六—一〇一一)の前後だ。時平の甥が  
北野社の社殿を増築、一條天皇即位の年には慶滋保胤とい  
う文人が「天満天神」を「文道之祖、詩境之主」と讃え(※  
二十六年後、大江匡衡が「文道之祖、風月之本主」と讃える)  
ており、非常に早い時期から菅公を学問の神として尊崇し  
ており、これが重要だ。永延元年(九八七)七月、摂政藤  
原兼家が北野廟に参詣し、翌月には勅祭として北野祭が始  
まっている。

正暦二年(九九一)、伊勢大神宮以下十九社(その後  
二十二社)への祈雨奉幣に際し、北野社が加えられるのは  
大きい。二年後、菅公に正一位・左大臣を贈り、さらに人  
臣最高位の太政大臣を贈る。この頃、疫病が流行、多くの  
死者が出ており、菅公の霊がまだ鎮まっていけない、とみて  
いたと思う。左大臣の藤原道長が北野祭への神馬の奉納を  
恒例としたり、一條天皇が初めて北野社に行幸されるなど  
一條天皇朝の頃、北野社に対する手厚い崇敬が行われる。  
これは藤原氏、とりわけ摂関家が一所懸命、北野社の保護

に力を入れたということだ。

平安末期に『北野天神縁起』が成立したことも大きい。  
菅公が北野社に祀られる次第を中心に御神威・御神徳を記  
述した縁起で天神信仰の理論化だ。様々な史実・伝承をも  
とに(一)菅公の伝記(二)没後の怨霊の活動(三)北野  
天満宮の創建(四)霊験・利生譚の四つから構成している。  
幾つもある中で北野天満宮に残る承久本は唯一国宝だ。こ  
の縁起の基になった文章に御神徳が書かれている。それに  
は(一)詩文の神として讃える学者や文人の信仰(学問の  
神・受験の神のルーツ)、(二)正直の徳を守り、孝道を擁  
護し、冤罪を晴らす神徳(三)長寿と極楽往生に導く神、(四)  
王城鎮護の神、(五)藤原氏摂関家、とりわけ忠平とその子  
孫を守護する神としてしている。

鎮座以前の「北野」の地は、狩猟の場であり、大嘗祭の  
際の荒見河祓の「荒見河」は境内の西を流れる紙屋川と考  
えられ、重要な儀式に関わる聖なる場所だった。『続日本  
後紀』には「遣唐使の為に天神地祇を北野に祀る」とあり、  
遣唐使の航海安全を祈る祈祷場所でもあった。また、菅公  
が亡くなった翌年には「雷公を、北野にまつらしむ」と書  
かれた史料もあり、時平の父基経が秋の祭の収穫を祈って  
雷公に祈ったところ霊験があったといわれ、北野の地のど  
こかで一年の収穫を祈る祭が行われていて、これが天神信  
仰に影響を与えていることが考えられる。そもそも「天神」  
にも多様な意味があった。

平安時代以降、天神信仰には大きく四つの拠点があった  
と考える。一つは菅原氏のルーツ、土師氏の氏寺・土師寺  
に由来する道明寺天満宮(藤井寺市)、菅家の伝統だった吉  
祥院悔過を修する場に由来する吉祥院天満宮(京都市南区)、  
菅公の遺体が埋葬された太宰府天満宮、そして北野天満宮  
だ。この四つの拠点が混然一体となって天神信仰の中心と  
なり、天神社が日本各地に勧請され、社領もふえ、天神信  
仰の多様化が進行し今日に至っていると考えている。

(文責・編集部)

竹居明男(たけい あきお)

昭和二十五年生まれ。同志社大学院博士後期課程中退。日本古代・中世宗  
教文化史専攻。編著書に『天神信仰編年史料集成—平安時代・鎌倉時代前期  
篇—』(国書刊行会)、『北野天神縁起を読む』(吉川弘文館)など。

# 京都平安京の天門に鎮座する総本社北野天満宮境内西側に広がる 豊臣秀吉公ゆかりの歴史的遺構「史跡御土居の青もみじ」公開

## 菅公をお祀りする全国天満宮の総本社北野天満宮

天神信仰発祥の境内には創建以来千有余年に亘る歴史的遺構が数多く現存している。中でも境内全域はおよそ四〇〇年前の天正十五年（一五八七）に豊臣秀吉公をはじめ千利休らが亭主となり催した空前絶後の大茶会「北野大茶湯」の舞台として名を馳せた文化発祥の場所。北野は日本文化の発信地として様々な芸能興行が盛んに行われてきた。

そのような北野天満宮の境内西側一帯に広がるのが史跡御土居である。天正十九年（一五九一）、秀吉公が都を守る防塁として、また川の氾濫から市中を守る堤防として築いた土塁が御土居であり、総延長約二十三キロにもわたる城壁が京都を取り囲むように巡らされた。

やがて江戸時代から明治時代にかけて御土居はその役目を終え、ともに徐々に取り壊され、今では史跡に指定された北区や上京区の九カ所でしかその姿を見ることができない。秀吉公ゆかりの遺構が随所に見られる当宮の御土居は、幸い当時の様相を色濃く残し、北野にだけ唯一造られた石造りの暗渠（悪水抜き）など、他にはない歴史的遺構が残り、現在では紅葉の新名所と知られるまでに至っている。

なお青もみじ公開にあわせ、宝物殿特別展「宝刀展Ⅺと明治維新一五〇年」（四月十日～六月三十日）も同時公開する。



御土居展望所から見る国宝御本殿



新緑の青もみじと鶯橋



# 咲き誇る梅花の下”平安の雅“へ誘う

## 初の春の「曲水の宴」賑わう

菅公を顕彰し和漢朗詠の趣にて斎行する「曲水の宴」が三月十日、午前午後二回にわたり紅梅殿船出の庭で執り行われた。

曲水の宴としては三回目、春の開催としては初めての試みであったが、好天の土曜日に加え梅も見ごろとあって、多くの参拝者が鑑賞し、平安朝の雅を満喫した。

### 曲水の宴とは、 古来三月三日の節会に行われた行事

曲水の宴は、庭に作られた小川に酒を入れた杯を流し、それを取って飲むと共に、題に即した詩を賦すという宴会である。古来より三月三日の節会に行われた。

これは古代中国で行われていた上巳の祓（毎年三月初の巳の日に、水辺で体を清める行事）に由来する。それが杯を流すこと（流觴）と賦詩を伴い、宴の形式として整えられ、日本にも伝えられた。なお中国由来の行事であるため、賦詩は漢詩で行うのが通例であり、当宮の曲水の宴においてもそれが再現される。

最も有名な曲水の宴は、王羲之『蘭亭序』が生み出された永和九年（三五三）に行われたものであり、こうしたイメージも含めて伝えられたのか、日本では文人の風雅な行事として尊ばれた。

### 菅公と曲水の宴

菅公と曲水との関係を考えるにあたって、宇多天皇主催で行われた曲水は重要である。宇多天皇が菅公を重用したことは今更言うまでもないが、両者の蜜月はこの曲水の宴でも見られたからである。

菅公は確認できるだけでも寛平二年（同四年（八九〇）〜八九二）、昌泰二年（八九九）の四回にわたって曲水宴に参加している。いずれも宇多天皇主催のものであり、菅公が「文人」として招かれていることが当時の記録によって確認できる。これは宇多天皇が菅公の文才を高く評価していたことの証左である。『菅家文草』にはこれら曲水の折に作られた詩文がいくつか残されており、朗詠で歌われる漢詩もその一つである。



平安朝の雅を現代に



多くの観覧者が来場

春の開催は初めて  
梅花咲き誇る境内で平安朝の雅を現代に



寺田一博氏・内藤麻美子氏



山本晃嗣氏・鈴鹿可奈子氏



松林俊幸氏・杉山早陽子氏



細矢 衡氏・関沢菜柚氏



野々口寿璃さん・泉珠以さん・北村柊奈さん  
岩本和真君・畠山凌一君



梅花が咲き誇る中、白拍子奉納

そのような歴史に鑑み、一昨年秋の文化の日、和漢朗詠という北野天満宮ならではの仕様によって千百余年ぶりに再興したこの「曲水の宴」。昨秋も同じ日に第二回目を催し、それぞれ大盛況だった。参拝者等から「菅公がこよなく愛された梅の季節にも」という要望が強く出されていたことから、今回は梅花咲き誇る春の曲水の宴開催となった。有斐斎弘道館館長で専修大学准教授濱崎加奈子氏の司会解説が進められ、紅梅殿上で菅公作の漢詩『花時天似醉』が朗詠され、白拍子が華やかに和歌と舞を奉納した。

この後、曲がりくねった小川沿いに平安装束の男女四組の詠者が座り、上流から流れて来る盃に口をつけながら「神」「賀」「梅」「恋」の題をもとに男性が漢詩を、また女性が和歌を筆でしたためた。

作られた作品は、京都教育大学教授谷口匡氏、同志社大学副学長植木朝子氏によって披講され、丁寧かつ分かりやすく解説がなされた。

この日は、早春らしい好天に恵まれ、咲き誇る梅花の下での宴となり、多くの鑑賞者を、平安の雅“へと誘った。名古屋から来たという若い女性は「梅も見ごろで、京都らしい雅な宴を鑑賞できて最高の気分です」と話していた。

当宮では、この「曲水の宴」を菅公の御事績の顕彰と文化発信の重要な行事と位置づけ、春と秋の年に二度開催する。秋は十一月三日の文化の日に、春は三月上旬にそれぞれ催す予定である。



御手洗靖大氏・上寫将司権祐宜(付物 京都雅楽会)  
谷口匡氏・植木朝子氏・濱崎加奈子氏



ご参列 冷泉貴実子氏



ご参列 冷泉為弘氏

次第

- 一、入庭
- 一、朗詠・白拍子「花時天似酔」
- 一、流觴曲水
- 一、詩歌披講
- 一、賜禄
- 一、退庭
- 一、終納の儀

詠者

題 〈漢詩〉

〔神〕 寺田一博 (京都市議会議長)

〔賀〕 山本晃嗣 (株式会社山本家取締役)

〔梅〕 松林俊幸 (朝日焼)

〔恋〕 細矢 衡 (京都教育大学大学院一年次)

〈和歌〉

内藤麻美子 (染色作家)

鈴鹿可奈子 (株式会社聖護院八ッ橋総本店専務取締役)

杉山早陽子 (御菓子丸主宰)

関沢 菜柚 (同志社大学神学部一年生)

童子

島山凌一 岩本和真 泉珠以 北村柝奈 野々口寿璃

朗詠

御手洗靖大 上寫将司 (付物・京都雅楽会)

白拍子

上杉遥 石山裕菜 伊東桃

読上及解説

谷口匡 (京都教育大学教授) 植木朝子 (同志社大学副学長)

〔菅公顕彰曲水の宴保存会〕

千 玄室 氏 (裏千家今日庵大宗匠)

冷泉 為人 氏 (上冷泉家)

冷泉 貴実子 氏

冷泉 為弘 氏 (下冷泉家)

唐橋 在倫 氏 (菅家)

橘 重十九 氏 (北野天満宮宮司)

〔曲水の宴実行委員会〕

臈谷 寿 氏 (同志社女子大学名誉教授)

植山 俊宏 氏 (京都教育大学教授)

植木 朝子 氏 (同志社大学副学長)

浅井 航洋 氏 (京都女子大学非常勤講師)

谷口 匡 氏 (京都教育大学教授)

西山 剛 氏 (京都文化博物館学芸員)

太田 達 氏 (有斐斎弘道館代表理事)

濱崎加奈子 氏 (専修大学准教授)

神原 孝至 氏 (北野天満宮禰宜)

神 寺田一博  
天子東遷民又去  
禱神欲解洛城憂  
維新一百五十歳  
誰念今聞撃壤謳

賀 山本晃嗣  
新萼低开梅花枝  
流觴曲水聽黃鸝  
如今最喜此身健  
感慨盡胸無尽時

梅 松林俊幸

鶯啼千里断人腸  
惆悵客心聞暗香  
一歲忽過春又至  
梅花寒艶奈他郷

恋 細矢 衡

雪後愁心分手歸  
月光寂寂淚痕輝  
醉書君姓君無笑  
恋愛古來相思梯



朗詠「花時天似酔」

我君一日之沢

万機之余

曲水雖遥 遺塵雖絶

書巴字而知地勢

思魏文以翫風流

(菅原道真公「菅家文章」和漢朗詠集)

【詩の意味】

「曲水の宴は遙か遠くになり、その名残も絶えてしまっている。巴という字のように曲がりくねった川で、風流韻事を好んだ魏の文帝を思つて雅な遊びを楽しむ」と、曲水の宴を再興した宇多天皇を称える詩の一節。菅公の高い教養がうかがえます。



# 梅花祭

## 皇室祭典と神社祭典が一つに齋行する神事

菅公の遺徳しのび厳肅に梅花祭齋行  
厄除信仰の参拝者も多く、大賑わい

梅の花をこよなく愛された菅公の祥月命日にあたる二月二十五日、本殿において午前十時から梅花祭を厳かに齋行し、御遺徳をしのんだ。梅はまだちらほら咲きの状態だったが、穏やかな日和の日曜日の縁日とあって厄除祈願にお参りする人も多く、境内は初詣並みの賑わいを見せた。



梅花

〔菅公御歌〕

東風吹かば匂ひおこせよ梅の花  
主なしとて春を忘るな



祭典には厄除信仰の  
特殊神饌「梅花御供」を奉饌

梅花祭は、神前に西ノ京の当宮神人の末裔である七保会ななほかいの会員が調製した大小二つの台に蒸した米を盛った「大飯」「小飯」と呼ばれる「梅花御供」、厄除の玄米を入れた紙の容器に紅白の梅の小枝を挿した「紙立」と呼ばれる二種の特殊神饌を奉饌して齋行した。

この「紙立」は、男女の四十二・三十三の厄年に因むもので、白梅を挿した紙立は四十二組、紅梅を挿した紙立は三十三組。調製に用



先ず神前に梅花を供す

いられた厄除玄米は初詣参拝者に授与される招福の梅の枝「思いのまま」に取り付ける瓢箪の中にも入れられる。故に梅花祭は、菅公の御遺徳を偲ぶとともに厄除・災難除の祭典としても広く信仰されている。この日、神職は冠に菜の花を挿して奉仕したが、これは古くは御神霊を宥めるとの意味合いから、音の通じる菜種の花を供えて「菜種御供」と称していたことの名残とされる。



七保会神人 吉積 徹宰領奉仕による「奉幣の儀」

この梅花祭には、貞明皇后が行啓された古例により今年も皇后陛下の御代拝（宮内庁京都事務所長）が参向され御拝礼された。こうした御拝礼は、全国的にも珍しいものであり、当宮と皇室の縁の深さを物語るものである。

**皇室祭典と神社祭典を  
一つに齋行する類を見ない神事  
今年も皇后陛下の御代拝参向される**



御代拝参向による御拝礼（宮内庁京都事務所長）



特殊神饌「梅花御供」



特殊神饌「大飯 小飯」を供す



特殊神饌「紙立」を供す



上七軒芸舞妓によるお点前



船出の庭を背景に華やかに野点大茶湯催す

はのものといえる。上七軒歌舞舞会の際には、毎年梅花祭の日の呼び物の一つとなっている。一度に席に座れる人数は限られており、今年もその順番を待つ人で長蛇の列ができた。

例年ならもう見ごろを迎えている梅も、今年は初春の寒さの所為もあり、まだちらほら咲き。しかし、美しい着物の芸舞妓の心を込めた接待に、参拝者は満足顔で一服を楽しんでいた。



賑わう茶席

梅花祭の日の人気行事「梅花祭野点大茶湯」が、紅梅殿前の船出の庭で華やかに催されたが、順番待ちの長い行列ができるほどの人気ぶりだった。

これは豊臣秀吉公の「北野大茶湯」に因むもので、昭和二十七年の千五十年大萬燈祭から行われており、茶文化ゆかりの当宮ならではの

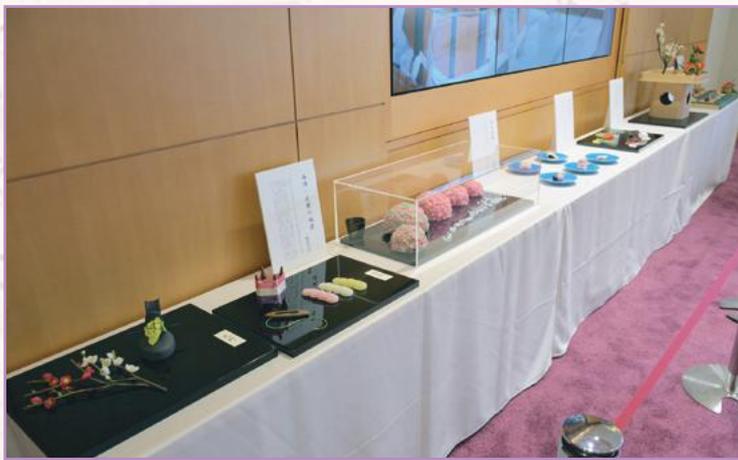
**華やかに梅花の下の野点大茶湯  
順番待ちの長い行列**

# 天正の「北野大茶湯」ゆかりの北野で 「京菓子コレクション」開催

京の老舗和菓子店が集い、多彩な催しで、  
北野の歴史文化と京菓子文化の魅力を広く発信



北野大茶湯図

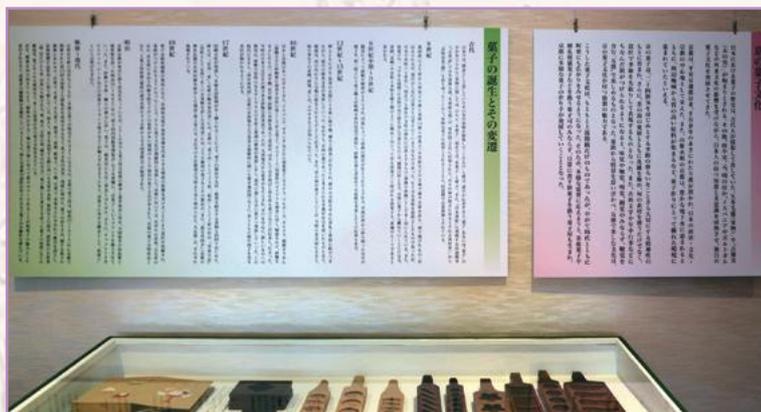


飾り菓子の展覧

京菓子の歴史・文化や職人の技に触れて京菓子の魅力を味わうイベント「京菓子コレクション」が、三月二日から四日まで文道会館で開催され、連日多数の参拝者の来場で大賑わいを見せた。  
京の菓子文化が「京都をつなぐ無形文化遺産」に選定されたことを記念するイベント。当宮は、天正十五年（一五八七）十月一日、豊臣秀吉公が開いた大茶会「北野大茶湯」ゆかりの地であり、その縁による献茶祭が毎年十二月一日本殿で斎行されている。茶会といえば和菓子は付き物であり、毎年の献茶祭にも京都の老舗和菓子店が組織する「菓匠会」が協賛し、飾り菓子の展示会を開き人気を呼んでいる。  
こうした経緯もあり、この「京菓子コレクション」は、当宮と京都市、京都市観光協会の主催によって開かれた。



木型の展示



京菓子の歴史・文化紹介

「京菓子の歴史・文化や職人の技に触れて京菓子の魅力を味わうイベント「京菓子コレクション」が、三月二日から四日まで文道会館で開催され、連日多数の参拝者の来場で大賑わいを見せた。  
京の菓子文化が「京都をつなぐ無形文化遺産」に選定されたことを記念するイベント。当宮は、天正十五年（一五八七）十月一日、豊臣秀吉公が開いた大茶会「北野大茶湯」ゆかりの地であり、その縁による献茶祭が毎年十二月一日本殿で斎行されている。茶会といえは和菓子は付き物であり、毎年の献茶祭にも京都の老舗和菓子店が組織する「菓匠会」が協賛し、飾り菓子の展示会を開き人気を呼んでいる。  
こうした経緯もあり、この「京菓子コレクション」は、当宮と京都市、京都市観光協会の主催によって開かれた。



文化講座 笹屋伊織十代目女将 田丸みゆき氏



文化講座 有斐斎弘道館館長 濱崎加奈子氏



文化講座 末富 代表取締役 山口富蔵氏



京菓子コレクション限定の和菓子



茶香服体験

### ◆和菓子の製作実演や京菓子一服コーナー

連日、文道会館の一・二階、地下一階の三カ所を使って行われた催しは多彩。一階には、京菓子の歴史・文化を紹介するパネル展示や京菓子の作品展、干菓子を作るための木型や和菓子のレシピ「見本帳」の展示、さらには連日五回にわたって和菓子の製作実演も行われた。そして、一番の



木型・見本帳の展示

呼び物は、老松・鍵善 良房・亀屋良長・笹屋 伊織・末富・俵屋吉富・ 鶴屋吉信・二條若狭屋 といった老舗和菓子店 がつくった「京菓子コ レクション」限定の和 菓子を賞味しながら抹 茶を頂く「京菓子一服 コーナー」があり、連 日、大盛況だった。

### ◆京菓子の魅力を伝える文化講座

二階では文化講座が開催された。二日は笹屋伊織 十代目女将で、京都観光おもてなし大使の田丸みゆ き氏が「京菓자에託された日本人の心」、三日は専 修大学准教授で公益財団法人有斐斎弘道館館長の濱 崎加奈子氏が「芸術文化としての京菓子」、四日は 末富社長で裏千家学園講師の山口富蔵氏が「お菓子の ある暮らし」京の春」と題してそれぞれ講演した。この中で山口 氏は、当宮が北野大茶湯ゆかりの神社であることを紹介、「京菓子は都の文化であり、単なる名物菓子ではない。色や形、 名前一つにしてもいかに季節を表すかに心を配っている」と、京菓子づくりにかける誇りを語った。

地下一階では「お茶の淹れ方講座」(二・三両日)や「茶香服」(四日)の催しが行われたほか三日、一階で伝統工芸職人 による実演も行われた。

### ◆見ごろの梅花の下での太鼓奉納

梅が見ごろとなった四日は、午後一時から梅苑内で神若会北野天神太鼓会による太鼓奉納が行われた。和菓子を頂きながら 一服を楽しんだ人たちが文道会館一階のウッドデッキに出て、見事なバチさばきの演奏に聞き入った。



文道会館デッキから見頃の梅苑を観る多くの観梅者



京菓子一服のコーナー



# 文道会館から多彩な文化行事を発信



## 「京都子ども観光大使 in 北野天満宮」 二十五人を子ども観光大使に認定

「京都子ども観光大使 in 北野天満宮」が二月十七日午後、文道会館で開催され、参加した二十五人の小学生に認定書が授与された。

子ども観光大使とは、自分の地域の良さを体験、発信し、よりよい地域づくりに役立てようというもので、すでに全国で六千人以上の子どもが観光大使に認定されている。この日の催しは、その北野天満宮版。

先生から子ども観光大使の説明を受けた後、百人一首遊びをし、菅公の御歌「このたびは幣もとりあへず手向山」の札などを取り合った。神職から当宮や菅公について分かりやすく説明を受けた後、子どもたちは保護者と一緒に本殿に昇殿参拝した。引き続き「北野天満宮の秘密を知ろう」と、境内のあちこちを巡って当宮のことを勉強、数人ずつグループになって「本殿の周囲に飾られている動物は何?」「御土居は誰が造った?」などといったクイズを作成。実際に参拝者の人たちに、このクイズ問題を投げかけて親交を深めた。



参加者全員で記念写真

参拝者への突撃クイズを終えた子どもたちは再び文道会館に戻り、一人ずつ観光大使の認定書を授かった。今年七月には子ども観光大使の全国大会が愛知県大府市で開かれるが、この日当宮で認定書を受けた子どもたちの中から何人かが参加する予定。



勇気を出して質問です!



自分たちで取材した天神さんの魅力を発信



百人一首



## 「京のおもてなし 交流会」開催



京のおもてなし交流会

「京のおもてなし交流会」(観光ボランティア団体研究会・交流会)が二月十四日、文道会館に京都の観光ボランティア七団体の約二十人が参加して開かれた。主催者の京都市の担当者や宮司の挨拶に引き続き、神

職が北野天満宮の歴史などについて説明した。この後、北野界わい創生会や京都SKY観光ガイド協会など参加した七団体から簡単に活動報告が行われた。





## 京都・タイ両商議所の青年実業家が交流 「素晴らしい文化が味わえた」とタイ側



交流会の様子

京都商工会議所青年部（YEG）とタイ商工会議所青年企業家連（YEC）の国際文化交流イベントが二月二十三日、約八十人（うちタイ側は二十七人）が参加して開かれた。

二年前には京都のメンバーがバンコクを訪れ、経済だけでなくタイの文化にも触れる交流をしており、今回はその返礼であり、当宮崇敬会・天満宮講社の理事を務める才本隆彦氏（株式会社ハウズ代表取締役）の御子息である才本和範氏（京都プラン代表取締役）が中心となって計画を進め、日本文化に触れてもらう

とこの日の催しとなった。  
全員が本殿に正式参拝した後、文道会館での交流会となり、日本とタイ、両国歌斉唱で開幕。まず宮司が「日本にある約八万社の神社のうち約一万社が菅公を祀る神社であり、北野天満宮はその総本社です。今から千七十年ほど前に創建され、現在の本殿は一六〇七年の造営で国宝です。菅公は、学問を始め様々な芸能にも優れ、日本文化の礎を築いた人として今も多くの方から信仰されています。本日はごゆっくり境内の雰囲気味わって下さい」と記念のスピーチをした。

京都のYEGとタイのYECの代表が挨拶し、鏡開きをして乾杯、上七軒歌舞会の芸舞妓による舞を楽しんだ後、幾つかのグループに分かれ、通訳を交えて懇談した。交流会を終えたタイのメンバーは「北野天満宮で日本の素晴らしい文化を味わうことができた」と満足そうに話していた。



京都商工会議所青年部 竹村一鷹会長挨拶



紅わらべ奉奏



## 「きもので乾杯」開催 きももの姿の百人が集う



きもので乾杯

京都市と「伝統産業の日」実行委員会主催による「きもので乾杯」が二月十日、文道会館にきもの姿の約百人が参加して開かれた。

京都市では、京都の伝統産業の魅力を国内外に発信するため春分の日を「伝

統産業の日」と定め、毎年多彩な催しを開いている。参加者はきもの姿に限定というこの日の「きもので乾杯」もその一環。

吉本興業の木村祐一さんと福本愛菜さんもきもの姿で司会を務め、渡邊隆夫実行委員長、宮司の挨拶に続き、寺田一博京都市会議長の乾杯の音頭によって参加者は、京都の伝統産業品である日本酒や山梨県ワイン 酒造組合提供の甲州ワインで乾杯。その後、酒やワインを頂きながら京料理の弁当に舌鼓を打ち、上七軒歌舞会の芸舞妓による舞や京都の伝統産業品が当たる抽選を楽しんだ。



## 梅苑 公開

# 初のライトアップは人気上々 五百灯のろうそくの灯が幻想的雰囲気醸す

梅苑の公開が今年も二月九日から始まった。梅は菅公ゆかりの花であり、京都市内でも有数の梅の名所として知られる梅苑は見ごろになるにつれ多くの参拝者が訪れ、賑わった。

とくに今年初めて二月二十三日から三月十八日まで毎週末の金・土・日の三日間に限りライトアップに踏み切ったところ、「幻想的な雰囲気の中、観梅ができる」と評判を呼び、夜の梅苑は予想以上の人気を見せた。

上の人気を見せた。

約二万坪の境内には約五十種、千五百本の梅の木があり、その多くが梅苑に集中している。毎年二月上旬から三月下旬にかけて花開き、馥郁とした梅の香りが漂う梅苑は、京都市内部では屈指の梅の名所として全国から観梅に訪れる参拝者が絶えない。

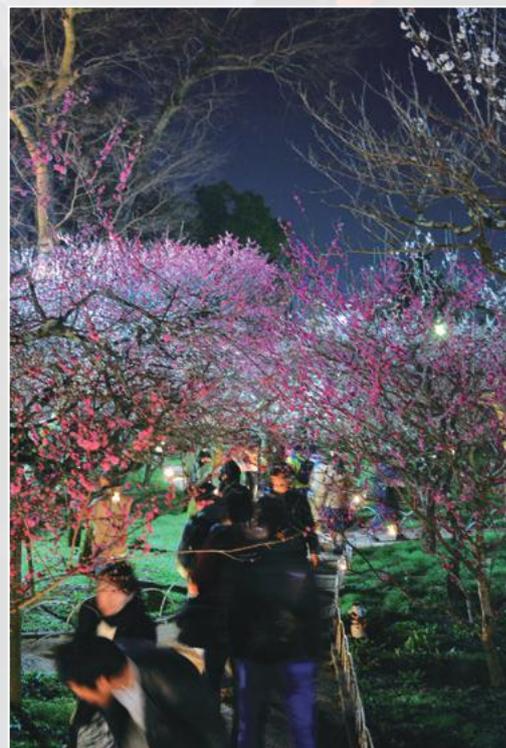
今年には初春の寒さの所為もあり、二月二十五日の梅花祭の頃は、まだちらほら咲きに過ぎなかったが、その後は穏やかな日となつて数日で一気に見ごろを迎えるまでになり、梅苑は連日、観梅を楽しむ参拝者で大賑わいとなった。

通常、梅苑の入苑時間は午後四時で終わるため、他府県からの参拝者などから「もう少し遅い時間まで開苑してほしい」との声が寄せられており、今年初めて週末の三日間に限ったのライトアップを実施した。

午後九時までの「夜の観梅」は、LEDライトとかがり火、五百灯のろうそくの灯が美を競うように咲く梅苑を淡く照らし「夜の観梅も幻想的な雰囲気いい」と好評であった。当初の予想を上回る人出を受け、神社としては来年以降も夜の観梅の実施を検討している。



見頃を迎えた梅苑から見る楼門



夜間も多くの観梅者



咲き誇る梅花と文道会館



観梅者でにぎわう境内



ろうそくの火に照らし出される梅苑



ライトアップされ幻想的な世界が広がる梅苑

# 戌戌 初詣

「良い年に」「無病息災」「学力向上」など  
様々な願い込めた参拝者の列、長く



戌年初詣―。三日こそ少し冷え込んだものの正月三日が日とも晴れか曇りのまざまずの好天となり、「良い年になりますように」「無病息災で過ごせますように」「学力が向上しますように」など様々な願いを込めた参拝者の長い行列ができ、境内はわき返った。

御本殿前中庭で十二月三十一日の午後四時から斎行した年越の大祓で新春を迎える神事は始まり、神社役員・崇敬参拝者ら約五百人が神職と共に大祓詞を奉唱、この一年間の罪や穢れを祓った。同七時半から摂社火之御子社の御神前において鑽火祭を斎行、古式により浄火を鑽り出し、これを篝火に移して、同十時からは初詣参拝者への火縄授与を行った。

新年最初の神事歳旦祭は、元日午前七時から本殿において宮司以下神職によって厳かに斎行し、世界平和・国家隆盛・皇室と氏子崇敬者の弥栄を祈願した。

本殿前は、連日初詣参拝者で身動きが取れないほどの賑わいとなり、神前では家族連れや若者らが次々拍手を打って新年の祈りを捧げていた。昇殿参拝祈祷を受ける人も例年より多く、新しく設けた社務所内の待合所はその順番を待つ人で溢れた。

東西授与所は、お札や祈願絵馬・お守りなどを授かる参拝者の行列が後を絶たず、牛社や絵馬掛所も志望校を書いて祈願する若者らでいっぱいになる状況が続いた。

参道の両脇、境内一円は多くの露店が軒を連ね、初詣参拝者で活況を呈した。



# 神前書き初め『天満書』 — 書道上達・学力向上を祈願

## 筆始祭

書道の神でもあった菅公を偲び、一月二日午前九時から本殿で御遺愛の硯などを供えて筆始祭を斎行。子どもたちを始めとする書に親しむ人たちの技術の向上・学力向上を祈願し、この日から神前書き初め「天満書」を始めることを奉告した。



## 力強く筆振るって「天満書」

「天満書」を一月二日から四日まで絵馬所で行い、初詣の子どもや大人が力強く筆を振るい、書いた作品を奉納した。天神様の神前で書き初めをし、書道のの上達・学力向上などを祈る「天満書」は、昭和二十七年以来、北野天満宮の正月に行われる恒例行事として定着。三日間で千三百七十点が奉納され、これに家庭で書かれた作品千五百五十八点を加え、今年の奉納全作品は二千九百二十八点もの作品数となった。



## 全作品を西廻廊と絵馬所で展示

「天満書」として奉納された全作品の展示を一月十九日から二十七日まで御本殿西廻廊と絵馬所で行い、期間中多くの参拝者が見入った。審査は展示初日に開催。日比野実・真神巍堂・山本悠雲・岡本藍石・竹内勢雲の各先生と宮司によって入念に行われ、神前の部四百二十点と家庭の部五百十八点の合わせて九百三十八点の入選作が決まった。



## 入選者授賞式

### 一人ずつ賞状授与

入選者の授賞式を一月二十七日御本殿で執り行い、天満宮賞など特別賞に輝いた子どもや家族が参列した。授賞式に先立ち奉告祭を斎行。参列した子どもたちの代表が玉串を捧げ、それに合わせて全員が拝礼、書道のの上達と学問の向上を祈願した。

授賞式では加藤権宮司が「書道とともに他の勉強も頑張ってください」と話し、一人ずつ賞状と記念品を手渡した。



## 入選者は次のみなさん。

### 〔神前の部〕

- ▽天満宮賞 平井莉世（ひかり幼稚園年長）、齋藤志樹（朱雀第四小一年）▽宮出紅羅（亀岡市立曾我部小二年）、平井隆一（つじヶ丘小三年）、藤谷優衣（亀岡市立詳徳小四年）、福井真希（亀岡市立大井小五年）、金子知樹（三山木小六年）、山島祐希（近畿大学附属豊岡中一年）、藤井姫流（西賀茂中二年）、中野葵（洛南高校附属中三年）
- ▽京都新聞特別賞 橋本茉歩（亀岡市立大井小四年）
- ▽京都新聞賞 村上夏美（亀岡市立大井小一年）、井原稟乃（室町小二年）、仲岡牙華（向日市立第六向陽小三年）、森田裕生（田原本町立東小五年）、中村公馨（志賀小六年）、神谷莉愛（亀岡市立東輝中一年）、水谷純哉（長島中三年）
- ▽鳩居堂賞 中田彩葵（砂川幼児園年長）、竹岡万弥（百道小一年）、上畑日和理（京都教育大附属京都小二年）、齊藤樹の（亀岡市立安詳小三年）、松浦拓夢（亀岡市立大井小四年）、藤本風香（園部小五年）、伊東立登（普賢寺小六年）、岡本優奈（明石市立江井島中一年）
- ▽金賞 小笹龍之介（西陣中央小一年）始め百六十一人
- ▽銀賞 中山大希（仁和小一年）始め二百三十二人

### 〔家庭の部〕

- ▽天満宮賞 山岡ひなた（改進保育所年長）、三木春那（祥栄小一年）、梅本莉沙（三山木小二年）、木村ゆきは（伏見住吉小三年）、亀井都愛（桑只小四年）、平元里奈（魁書道會五年）、井村優花（亀岡市立城西小六年）、川口海里（京田辺市立田辺中一年）、齊藤璃の（亀岡市立東輝中二年）、高木愛友（京都府立園部高附属中三年）
- ▽京都新聞賞 山口千尋（普賢寺小一年）、今村心春（宇治市立小倉小二年）、齊藤樹の（亀岡市立安詳小三年）、小林美友（京田辺市立三山木小四年）、片岡璃乃（柏野小五年）、江上恵（三山木小六年）、西村優月（京都聖母学院中一年）
- ▽鳩居堂賞 藤村柚希（大徳寺保育園年長）、上野実成（魁書道會二年）、小菅優太（普賢寺小三年）、古島利一（京都市立御所南小四年）、塚本花愛（大塚小五年）、芦原英太（亀岡市立詳徳小六年）、平沼菜（同志社中二年）
- ▽金賞 立田蒼人（明徳小一年）始め百九十六人
- ▽銀賞 住野あんな（若倉南小一年）始め二百九十八人

### 〔審査員の講評〕

今年の干支である「戌」という字が多かった。常用漢字にはない字なので、子どもたちがそれを選んで書いてくれたことを喜んでる。また、「梅」「牛」といった北野天満宮特有の言葉も相変わらず多かった。毎年このことだが、小学校の中学年ぐらいが本当に気持ちを込めて書

思いのまま授与

北野の新年縁起物として定着



四年前の初天神で六十年ぶりに復活した招福の梅の枝「思いのまま」の授与が今年も元旦から始まり、多くの初詣参拝者が受けられた。

饌の調製に用いる玄米の入ったひょうたんを取り付け、家庭に春の訪れと幸せを呼んでほしいとの願いが込められた授与品。花瓶に挿しておけば、赤や白などの梅の花が咲くことから参拝者に人気があり、新年の縁起物として定着している。

楼門の糸人形

西陣誕生550年、テーマは「応仁の乱」

西陣織PRの「ニシジンくん」も登場

西陣つくりもの人形「糸人形」が今年も元旦から五日まで楼門内側の左右に飾られ、初詣参拝者の目をひきつけた。この糸人形は、西陣織工業組合の依頼により、毛利ゆき子西陣和装学院学長の監修で、同学長と有志



らが毎年テーマを変えて制作している。

西陣の名は、十一年の長きにわたった応仁の乱（二四六七年三月五日発生）に際し、西軍の将・山名宗全がこの地に陣したことに由来するが、発生から五百五十年に当たるところから、向かって右側は「応仁の乱」をテーマとした。山名宗全と乱の端緒をつくったとされる日野富子の人形を西陣の帯地・絹糸などを使って巧みに作りあげた。

また、左側は西陣織関連の若手従事者で組織する「西陣連合青年会」が、西陣織をより身近に、より深く知ってもらおうと考案したキャラクター「ニシジンくん」が飾られた。「ニシジンくん」は、西陣織を織る横糸を巻く管と絹糸をイメージしたものといい、まだ非公認のキャラクターだが、西陣呼称五百五十年を記念し、西陣織産地の繁栄を願って制作したという。監修に当たった毛利学長は「若い人たちにも西陣のことを知ってもらおうきっかけになればうれしいです」と、話していた。

池坊京都支部の献華展

新春恒例の華道家元池坊京都

支部（中路喜久子支部長）による「新春献華展」が元旦から二日まで神楽殿で行われた。

立花・生花・自由花の形で生けられた六点が展示され、新春の香ただよう松・千両・胡蝶蘭などを使った見事な仕上げながら参拝者の足を止めさせていた。



いていると思う一方、低学年にも高学年にも良さが見られた。さらに中学生、高校生の作品からも、正月にここで書き初めを出すことに意義を持つていることが感じられ、うれしい。

デジタル化の進展とともに文字を丁寧に書くことの意義が薄れつつある中、この書き初めで、多くの人に自分の書いたものを見てもらうことは非常に大きな意味を持つていると思う。子や孫の代までも、この北野天満宮の文化が途絶えることなく続いてほしいと思う。

そろばんはじき初め

新春恒例の「そろばんはじき初め」が一月五日、絵馬所で小学生を中心に約二百六十人が参加して行われた。

全員が本殿に昇殿参拝してそろばんの上達と学業の向上を祈願し、絵馬所に移動してフラッシュ暗算をした後、長さ五・五メートル、四百桁もあるジャンボそろばんを使って次々はじき初めをした。先生から上達賞を貰った子どもは、「そろばんが上手になりますように」「勉強がよくなりますように」など、それぞれの願いを絵馬に書いて奉納した。



### 初雪祭を齋行

今冬になつて初めて雪景色がみられた一月十四日、一の鳥居内東側の影向松かげむかしの前で初雪祭を齋行した。

毎年三冬（立冬から立春前日）までの間に初雪が降ると、菅公が影向松に降臨され歌を詠まれるという伝説に基づくと神事で、御神前には菅公御遺愛の硯や筆、短冊等を供え、厳肅に祭典を執行した。



### 新春奉納狂言



茂山忠三郎社中

猿楽會と茂山忠三郎社中の主催による「新春奉納狂言」が、一月三日、神楽殿で行われた。毎年、この日に奉納される恒例行事。「末広がり」「寝音曲」「口真似」「鼻」「栗焼」「福之神」の六番が奉納され、神楽殿を取り囲んだ多くの参拝者を伝統芸能の世界へ誘った。

### 京凍る初天神 雪舞う中、にぎわう

初天神の一月二十五日、京都市内は雪が舞う厳しい冷え込みに見舞われたが、当宮参拝者の足は途絶えることなく続き、終日にぎわった。

未明から雪が降り、境内は朝方うつつら雪化粧となった。京都市内の最低気温はマイナス三・六度（平年〇・七度）、最高気温も三・五度（同八・四度）とこの冬一番の冷え込みの中、たくさんの参拝者が御本殿前で拍手を打ち、祈りを捧げた。

表参道を始め境内一円には多くの露店が並び、参拝者が足を止めていた。すでに受験シーズンに入っており、御本殿前だけでなく牛社・絵馬掛け所周辺は若者らの行列ができた。



### 五穀豊穰を祈念 大祭 春祭を齋行

本年の五穀豊穰を祈念する春祭を三月十五日に齋行した。一般に言う春の五穀豊穰を願う祈年祭を当宮では古くより春祭と称して、厳肅に祭典を執行している。

当日は神社役員、関係者らおよそ五十人が参列し、宮司の祝詞奏上、巫女舞「紅わらべ」の奉奏が行われ、宮司はじめ参列役員が玉串を捧げた。

この日の境内は春の暖かさに包まれて梅花が咲き誇り、多くの観梅者が参拝に訪れていた。



斎行された祭典・行事 《1月～3月》

京都では節分の日にゆかりの四社寺を参詣する「四方詣り」の習わしがあり、当宮はその最後を担う重要な社として信仰を集めている。

北野追儺狂言は、摂社福部社の御祭神福の神が京の都を荒らす鬼を追い払うという約七十年前に創られた当宮オリジナルの狂言で、毎年、茂山千五郎社中によって奉納されている。「鬼は外！」の掛け声で、福の神から豆をまかれて鬼が退散すると、参拝者から笑いと拍手がおきた。



豆まき



上七軒歌舞会



茂山千五郎社中

災厄払う節分祭、にぎやかに  
追儺狂言・日本舞踊奉納・豆まき



崇敬者で組織される梅風講社（小石原満講社長）の祭典である梅風祭が、三月二十五日、本殿に約五十人が参列し、斎行された。

祭典では巫女装束を身にまとい、おすべらかしの髪に花をつけた八乙女が優雅に鈴舞を奉納した。講社や八乙女の代表らが玉串を捧げ、梅風講社の益々の発展と講社員の無病息災を祈願した。

祭典後、本殿前の中庭でも八乙女が舞を奉納したが、好天の縁日、梅苑公開最終日とあつて多くの参拝者が八乙女の舞を見守り、カメラを向けていた。

梅風祭斎行

八乙女が鈴舞奉納、講社隆盛を祈願



前列左より 水谷 凜さん 北村柊奈さん 泉 珠以さん 平田清那さん 保田小和さん 久保田花音さん 横山 葵さん 青山愛実さん

北野天満宮のこれからの祭典・行事《四月～六月》

四月十二日～十五日

文子天満宮祭



「文子さん」「文子祭」と呼ばれて親しまれている末社文子天満宮の例祭。四月十二日(木)から十五日(日)まで四日間にわたり斎行する。



四月二十日

明祭(中祭式)



菅公が薨去されてから二十年后、冤罪が晴れた延長元年(九二三)四月二十日にあたるこの日、その喜びを神前に報告する祭典を執行する。



五月上旬～六月下旬

修学旅行参拝



中学生を中心とする修学旅行の昇殿参拝。五月上旬から六月下旬にかけて一番のピークを迎える。



六月一日

火之御子社例祭

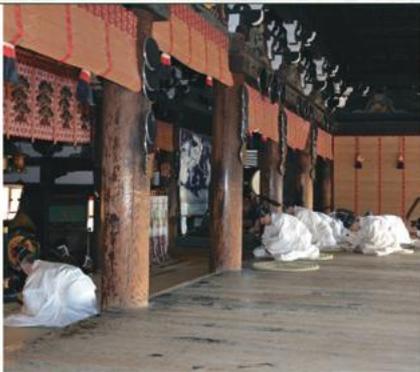


「雷除大祭」の通称で親しまれる摂社火之御子社の例祭。特別授与品として雷除のお守りやお札を授与するほか、参道には露店が並び終日賑わう。



六月九日

宮渡祭(中祭式)



菅公が平安京の北西(乾)の北野の地にご鎮座された天曆元年(九四七)六月九日にあたるこの日、御本殿にて祭典を執行する。



献酒祭

五月十六日



酒造組合や酒造会社の代表らが参列し、神前に新酒を供え、良い酒ができたことに感謝するとともに酒造りの安全と業界の繁栄、関係者の息災を祈願する祭典。

青柏祭

六月十日



古代より柏の葉は、祭事に用いる神聖なものであった。当宮ではこの日に柏の葉に御飯を包み、神前に供えて日々の指導に感謝し、季節の変わり目の神事として無病息災を祈願する。

梅の実ちぎり

六月中旬



正月の縁起物として新年の祝膳に欠かす事の出来ない「大福梅」の実摘み取りを当宮神職・巫女・職員ら並びに氏子崇敬者の奉仕により、六月中旬から約一週間がかりで行う。

御誕辰祭（中祭式）  
大茅の輪くぐり

六月二十五日



六月二十五日は菅公の御誕生日にあたり、御誕辰祭を斎行。楼門では、恒例の「大茅の輪くぐり」を行う。

夏越の大祓

六月三十日



日常無意識のうちに身に付いた罪や穢れは、古くより六月と十二月の晦日に斎行する大祓式で祓い清められてきた。特に六月の大祓は、「夏越の大祓」と称し、茅の輪神事を本殿前中庭にて斎行する。



# 北野天満宮と連歌

―連歌は言葉のみでぐら―

連歌は神さまのための催行のみでぐらです。五七五の長句と七七の短歌を交互につないでゆく、形の上ではいかようにも作れる文芸です。しかし、私意私心を去ってはじめて人のこころは深くつながること、何よりもそのこと、その姿を、神さまはよろこんでくださるのです。それはおのれ一身のことにかまけがちになる私たちへの激励であり、また時に叱咤でもあったのでしょう。



連歌井戸

連歌は使へることばに制御があります。原則として伊勢、源氏、勅撰和歌集を中心とする古典中の「やまとことば」しか使えません。さぞご不自由でしょうとよく言われるのですが、小奇麗な「便利」を捨てて初めて、心の奥に見えてくるものがあるのです。どう作ればいいですかとも相談されます。知識の受け売りをやめて、無心に心の声をきけばいいのです。実のところ、細かい沢山の規則があります。みな心が広がるのを戒めるためです。茶道に似ていますねとも聞きますが、戦国時代末期に連歌の理想を茶事に託した者が、のちの利休の茶への道をひらいたのです。

前句の「声」をひたすら聞いて、そこに自分の「声」を付ける。嘆きの声に声寄り添って「祈りの声」が生まれる。そこには「ことだま」が確かにあるのです。たとえば「粉雪に鳥居は」の句から「とぼしきをわけあひながら」の句までに、そのことを確かめていただけるでしょう。

## ―北野連歌所の奉行職は連歌師最高の名譽―

北野天満宮は室町時代から連歌会所を持ち、その奉行職は「花の下宗匠」と呼ばれて連歌師最高の名譽とされました。北野天満宮で京都連歌の会は年に二度の法楽の場をいただき、毎月稽古に励んでいます。

(文／光田和伸 京都連歌の会・顧問)

## 連歌奉納

北野天満宮奉納梅ヶ枝連歌  
平成三十年三月二十一日  
於・北野天満宮

### 『賦唐何連歌』

初折 表

幾とせの春を紡ぐや齋庭の和魂梅  
色も添ひつつ吹きわたる東風  
磯あそび終日けふは村挙げて  
遙か山なみ鳥は飛び交ふ  
降りやまで旅の装ひはいかならん  
夜寒に呼ぶか里人の声  
望月のいやめづらなる光にて  
さても明るき霧の竹叢

重十九 敦子  
裕雄 武彦  
光代 節子  
純一 博介

初折 裏

みかのみづ笹舟細き裏葉見ゆ  
小舎人童競ひこそ行け  
鳴神やはつか雨の香うち湿り  
うしもやさしさもこれのふみより  
うらみじよ筆に心の見えぬとも  
たぎる思ひの文ははからず  
水仙のひとと匂ふ格子窓  
月のはぼりて里の御神樂  
粉雪に鳥居は色ををさめつつ  
罪の深き身何を願はむ  
ひたすらに子の幸はひのあらまほし  
ふた手にやがて見えぬ若鮎  
みくまのは知られぬ花のあらはれて  
しばしやすらふかすみ立つ野辺

満千子 繪  
かおり 和伸  
まり 繪  
光代 純一  
武彦 博介  
敦子 節子  
満千子 和伸  
敦子 節子

名残 表

御仏を求めてたどる旅はるか  
吾妹子喘ぎされど笑みつつ  
とぼしきをわけ合ひながら来しものを  
手に手を取りて抱くふたりは  
藻塩垂る浜にひとすぢ煙見ゆ  
かしこは侘ぶるひとの焚く火か

かおり 武彦  
宣行 繪  
光代 博介

名残 裏

笛竹のこゑのうちにも涼しきに  
そぞろ歩きの浴衣すがしも  
山原は草おのががじし香を高く  
篋にあふるる木の実とりどり  
夕月夜からすが告げる友のこと  
露けき庭をうちながめたる  
冷まじやあたため酒を酌みてなむ  
別れを惜しむまどるやさしき

純一 節子  
和伸 満千子  
宣行 敦子  
武彦 敦子  
かおり 博介



梅ヶ枝連歌の様子



つくられた連歌の数々

献茶祭保存会だより

献茶祭保存会初寄り

献茶祭保存会役員と平成三十年明月舎月釜奉仕者が  
が参会し、献茶祭保存会初寄りが一月七日午前十一  
時半から明月舎において催  
された。

宮司が「新年おめでとう  
ございます。本年もよろし  
くお願いします」と挨拶し  
た後、今年のみ釜奉仕者に  
委嘱状が交付された。

初寄りに先立ち社務所で  
役員会が開かれ、予算に關  
する案件などの話し合いが  
行われた。



伊勢参宮



を御垣内参拝。今年一年の平穩無事を祈念した。  
おかげ横丁の観光に加え、二見興玉神社への参拝  
など実りある伊勢の旅であった。

一月十九日、新  
年恒例行事の伊勢  
参宮を神社役員・  
崇敬者など四十一  
名が参加し行った。  
神社総代であり  
当宮崇敬会梅風講  
社の講社長も務め  
る小石原満氏を団  
長に迎え、午前七  
時に北野天満宮を  
出発。一行は先ず  
豊受大神宮を参拝  
し続いて皇大神宮

京都産業大学教授・伝統工芸士

下出祐太郎氏 三宝をご奉納



京都産業大学教授として  
教鞭をとる傍ら、京蒔絵・  
漆芸「下出蒔絵司所」で伝  
統工芸士として活動される  
下出祐太郎氏 京都府下京  
区 Ⅱ が、神恩感謝として  
三宝をご奉納され、一月  
二十九日に本殿で奉納奉告  
祭を斎行した。

下出氏は当宮の神社青年  
会「神若会北野祭保存会」のメンバーでもあり、祭  
りのご奉仕はもとより、自身が京都産業大学で教え  
る学生たちと共に、北野天満宮について調査、研究  
も行っている。

この度のご奉納の三宝は下出氏自らが漆を塗り調  
製したもので、今後、日々の神事に用いる。

和風手品師 斯波幸子さんが島田傘奉納

和風手品師の斯波幸子さん（兵庫県川西市在住）  
が三月四日、神楽殿で島田傘を奉納した。

斯波さんは、傘出しマジックの第一人者、島田  
晴夫師の十数年来の弟子。島田傘とは、日本古来  
の古典奇術の傘出しを、島田師がオリジナル作品と  
して編み出した和傘の奇  
術。斯波さんは「日本文  
化の誇り得る奇術」とし  
て、伝承していかねばな  
らないと日々修練を重ね  
るとともに各地で公演を  
している。

この日、神楽殿でも童  
謡をバックに色鮮やかな  
和傘の花を咲かせ、参拝  
者の目を楽しませた。



演舞奉納 同志社女子大学  
京炎そでふれ！花風姿

御縁日の三月二十五日、同志社女子大学の演舞  
サークル「京炎そでふれ！花  
風姿」が、境内絵馬所前で創  
作演舞を奉納した。この日は  
日曜日の御縁日、そして梅苑  
最終日が重なったこともあり、  
参拝者や観光客が非常に多い  
状況の中、一年生だけで構成  
された新メンバー十名は、若  
さ溢れるパフォーマンスを二  
曲披露し観客を魅了した。



平安京の天門にて厄落とし  
厄除割符を授与

今年の初詣から社務所を  
はじめ境内各所で厄除割符  
の授与を始めた。

この札は本厄・前厄・後  
厄の三種に加え、日々の災  
難厄除を祈願する札の計四  
種類。氏名と年齢を札の裏  
に書き、割れた札の片方は  
当宮に納め、片方は自身が  
身に付ける。



願いを込めて札を割るこ  
とにより、厄を祓う、災難を割くなどのご利益があ  
るとされている。御本殿内には災難消除の象徴とさ  
れる桃の彫刻が刻まれるなど、古くより北野は災難  
厄除の靈験があらたかである。

昔公の御神意をお慰めする梅花祭は厄除の性質を  
色濃く残す神事であり、節分における四方詣の最後  
を担う当宮は、厄除信仰の最重要地とされている。

このような北野の厄除信仰は今後も広く発信して  
いく。

第三回北野天神杯フットサルリーグ授賞式

特定非営利活動法人京都市サッカー協会（五十川繁会長）が運営する京都少年フットサルリーグが、一月二十七日、京都市左京区の宝ヶ池フットサル場で「北野天神杯フットサルリーグ」を開催した。



今年で三回目となるこの大会、小学校六年生（U-12）の部の八チームが総当たりで熱戦を繰り広げ、激戦を勝ち上がり見事修学院フットボールスポーツ少年団が優勝し、トロフィーと賞状を手にした。

この日は小雪が舞う大変寒い一日だったが、各チームとも元氣一杯グラウンドを駆け回り、一心不乱にボールを蹴る姿が印象的であった。

上京消防団発足70周年記念式典  
北野天神太鼓会が太鼓演奏で祝福



日頃の防火活動でお世話になっている上京消防団（伊藤正和団長）の発足七十年周年記念式典が二月十七日夜、京都ホテルオークラに約二百七十人が列席して行われ、神若会北野天神太鼓会が威勢よく太鼓を演奏した。

太鼓会の演奏は、記念講演と祝賀会の間に行われ、十六人のメンバーが「祝い太鼓」「勇駒」「一心」など五曲をバチさばき鮮やかに披露し、団の発足七十周年に花を添えた。

神若会総会開催 六月に北野神輿会結成、  
北野天神太鼓会はフランス・パリで演奏

当宮神社青年会「神若会」による恒例の総会が三月十八日午後六時より社務所大広間にて開催され、総勢百名の会員が親睦を深めた。

総会に先立つ正式参拝では、北野天神太鼓会・北野祭保存会の両会長が玉串を供え、神恩感謝と会の隆盛を祈願した。

総会では、事務局より本年六月九日に北野天満宮神輿会が正式に結成され、神若会は北野天神太鼓会と北野祭保存会、そして北野神輿会の三本の矢を以て北野天満宮青年会として活動していく旨、報告がなされた。また同月十九日には、京都とパリの両市が本年友情盟約締結六十周年の節目を迎え、その記念式典開催にあたり、日本の文化伝統をパリ市民に広く発信するため、日本文化の中心地・京都、その文化の礎となった天神信仰発祥の地・北野天満宮の青年会として活動する北野天神太鼓会が京都を代表して、パリ市役所にて和太鼓の演奏を行うことが発表され、式典で演奏予定の新曲「対流」も初披露された。参加した各会員からは本年のこうした同会の精力的な活動の展開に対し、大きい期待が寄せられている。



創立二十五周年を記念して岩津天神太鼓が奉納演奏



岩津天満宮（愛知県岡崎市）の岩津天神太鼓のメンバーとその同伴者約五十人が四月一日正式参拝の後、紅梅殿船出の庭で太鼓を奉納した。

同太鼓は、町おこしを旗印に結成され、岩津天満宮での奉納のほか岡崎市の行事などでも演奏を行っている。

当宮での奉納は、千百年大萬燈祭（平成十四年）を皮切りに平成二十四年、そして今回で三度目。代表者の近藤孝義さんによると、今回は結成二十五周年を記念しての太鼓奉納という。子どもチームによる「遊」と大人チームの「凜」に分かれ、鮮やかなバチさばきを披露。鉦や横笛もまじえての軽快な曲目もあり、参拝者の喝采を浴びていた。

天神さん  
思い出写真館



昭和三年春齋行の千二十五年半萬燈祭における舞樂奉仕員の記念写真である。撮影場所は中庭に設けられた特設舞台の前である。



舞樂は奉祝祭を飾る催しとして五月一日から三日まで連日行われている。最初に舞われる振鈴の後には、萬歳樂・延喜樂・太平樂・納曾利などなど日によって曲目を変え、数曲ずつ奉奏されている。

「三日続きの舞樂奉奏を依頼したるに伶人諸氏は喜んで諾した。久しく演奏せざる曲目を加え、早くより練習をなしたり」とある。その甲斐があつたのだろう。連日大変な人気を呼び、「廻廊四周には諸人群れをなして陪観したり」と記録されている。

京都西陣の文化伝統を発信

株式会社西陣輝光(京都市北区、毛利泰巳社長)の「安治郎」ブランド名の発足十五周年を記念する発表会が三月三十一日から四月三日まで社務所大広間で開催された。毛利社長の母堂は、初詣の際に楼門を飾る西陣糸人形の監修を長年されている毛利ゆき子さん(服飾研究家で西陣和装学院学長)。毛利社長は、子どものころから母堂に師事、きもの文化の基本などを学び、染織の道に邁進。三年前の西陣織展では、お召着尺で文部科学大臣賞を受賞している。

今回の記念発表会は母堂の作品との競作展で、きものや帯など約三百点が展示された。十五周年の記念作品や母子が片方ずつ創り、両面使える帯など、親子の絆“を表す作品も並び、来場者の話題を呼んでいた。



月釜献茶(五月一日〜七月三十一日)

○五月	一日	献茶祭保存会	金澤	宗維	(明月舎)
	十三日	梅交会	吉岡	宗美	(松向軒)
	十五日	献茶祭保存会	前田	宗音	(明月舎)
	二十七日	松向軒保存会	土本	宗丘	(松向軒)
		紫芳会	植中	宗佳	(松向軒)
○六月	一日	献茶祭保存会	藤谷	宗美	(明月舎)
	十日	梅交会	扶桑会		(松向軒)
	十五日	献茶祭保存会	北風	宗照	(明月舎)
	二十四日	松向軒保存会	安田	宗伊	(松向軒)
		紫芳会	井田	宗美	(松向軒)
○七月	一日	献茶祭保存会	藤原	宗順	(明月舎)
	八日	梅交会	合同茶会		(松向軒)
	十五日	献茶祭保存会	不審菴社中		(明月舎)
	二十二日	松向軒保存会	休会		(松向軒)
		紫芳会	若幹会		(松向軒)

正式参拝された皆様(敬称略)(一月〜三月)

一月二十一日(日)	野上八幡宮
一月二十一日(日)	一般財団法人 三方五湖青年会議所
一月二十二日(月)	等彌神社崇敬講婦人会
一月二十五日(木)	J A兵庫西年金友の会高田支部
一月二十七日(土)	鞍岡神社大夫講
二月	J R東海親子で行く修学旅行
二月	京都(2/11 2/24 3/10 3/24)
二月	長岡天満宮ウオーキング同好会
二月	重要文化財研究クラブ
二月	関西医科大学耳鼻咽喉科学教室
二月	日本ボーイスカウト京都連盟
二月	信仰ふれあい講座
二月	上七軒天神講
二月	J R西日本
二月	T W I L I G H T E X P R E S S 瑞風
二月	T O S S いちばん星「京都子ども観光大使」
二月	京都商工会議所青年部×タイ商工会議所
二月	河上神社氏子崇敬会
二月	京都ホテルオークラ「季節の旅」
二月	あがら会
二月	日本奇術・和妻 島田傘 斯波幸子
二月	尚史会
二月	菅原神社(東京都町田市)
二月	北野天満宮神若会
二月	北野天神太鼓会・北野祭保存会
二月	広島県神社庁比婆東支部
二月	北野天満宮の文化財を巡ろう
二月	備中国総社
二月	三十二会
三月	三月二十三日(金)
三月	三月二十七日(火)
三月	三月二十九日(木)

挙式された皆様(一月〜三月)

二月	二月十一日(日)	秦野倫行・瑞希	ご夫妻
二月	二月十八日(日)	美馬祥司・かおる	ご夫妻
二月	二月二十三日(金)	五十嵐卓也・弥生	ご夫妻
三月	三月四日(日)	中西宏太・小百合	ご夫妻
三月	三月四日(日)	勝見友晴・まどか	ご夫妻
三月	三月十日(土)	森本享・佳織	ご夫妻
三月	三月十一日(日)	田上湧太・雅帆	ご夫妻
三月	三月十七日(土)	竹中卓也・範子	ご夫妻
三月	三月十七日(土)	中澤成俊・紗季	ご夫妻
三月	三月十八日(日)	中野雄太・彩	ご夫妻
三月	三月十八日(日)	射場智也・真由美	ご夫妻

新郎新婦様、御両家の皆様の末永いご多幸をご祈念申し上げます。

祭事暦(四月一日〜六月三十日)

○四月	一日	午前十時	月首祭
	三日	午前十時	神武天皇陵遥拝式
	八日	午前十時	賣茶本流献茶式
			煎茶賣茶本流家元
			渡邊琢祥宗匠奉仕
			末社 文子天満宮神幸祭
			月次祭
			末社 文子天満宮遷幸祭
			撰社 地主社例祭
			参籠
			明祭(中祭式)
			月次祭
			夕神饌
			昭和祭
○五月	一日	午前十時	月首祭
	五日	午前十時	児童成育祈願祭
	十五日	午前十時	月次祭
	十六日	午前十一時	献酒祭
	二十五日	午前九時	月次祭
			夕神饌
			参籠
○六月	一日	午前四時	撰社 火之御子社例祭
			(雷除大祭)
			月首祭
			二條流献茶式
			煎茶道二條流家元
			二條雅荘宗匠奉仕
			参籠
			宮渡祭(中祭式)
			青柏祭
			月次祭
			末社 竈社例祭
			参籠
			御誕辰祭(中祭式)
			夕神饌
			夏越大祓・茅の輪神事



## 北野社参拝次第

当宮には、「神記」と題する記録が伝わっている。そのなかに室町時代初期の応永一四年（二四〇七）に書かれた「神変靈応記」という書が収められている。この「神変靈応記」には、まず三所皇子にはじまる撰末社のいわれが記され、次に「神拝次第」「当社皇代次第」「当社本地事」「当社御実名事」「辞世文」「飛梅事」と題する記事が採録されている。

この内の一つ「神拝次第」には、室町時代の北野社における神拝の順序が記されている。これによると、参詣者は、東門から境内に入り、三所皇子、貴船、老松、後戸舎利、十二所、福部、十禅師と拝したあと、特に建物はないが平野に向かつて伏拝し、ついで尼神、御霊、早鳥、今尾、火神子、朝日寺、那伊鎌、毘沙門堂、一拳、新経蔵、周枳明神、如法塔、一位殿、従一位殿、三位殿、一夜松と詣で、御池のところでは安楽寺の所作と弁財天の所作をし、大判事、二本杉の正面で所作、一旦、南門から出て、外にある夷、三郎殿、松童を拝し、また門内に戻って、御塔、法花堂に詣で、そして本社回廊内にあつた白太夫を拝し、最後に本殿に参拝した。

この順序は、いまの境内でいえば、東門から境内に入り、地主社から逆時計回りで南門（現在の楼門）まで来、一旦南門を出て、現在の伴氏社のあたりにあつた社に詣で、ふたたび境内にもどり、本社殿回廊の東にあつた御塔、法花堂に詣でたのち、本殿に参拝という次第である。

この記事の最後には、神拝の次第は大概このようであるとすうえで、「大臣」以上は先ず正面から神拝すると注記している。

こうした参拝次第は、江戸時代にも続いていたようである。『養生訓』などの書で著名な貝原益軒の著した『京めぐり（京城勝覧）』には、京都の乾の方の名所として北野をあげ「一条通より千本辺の植木屋の家々に入りて草木を見て、紅梅殿を過ぎ、七軒茶屋の前にいで、天満宮の東門より入りてやしるに詣づ」とし、また「下よりゆくには、千本通りを上り、七本松下の森に出、影向の松右近の馬場の西の通り正面なり、天満宮の本社に詣づ」と二つのルートを示しているが、その後に参詣の人は本社の北にある地主社にまず行くよう勧められている。このように、江戸時代にも北野社参詣は、東門からのルートに重きが置かれていたようだ。

このことは、江戸時代の東門と南門（現在移され北門）とを比べると、わずかではあるが、東門の方が大きい（東門の桁行は二間四尺二

## 天満宮 歴史の一瞥

京都大学名誉教授  
藤井 讓治

寸、南門は二間半）。これも東門からの参詣順路が主要なものであつたことを窺わせる。なお、東門は、昭和三十一年（一九五六）に国の重要文化財に指定されている。



北野・東山遊楽図屏風

# 宝物殿特別公開 「宝刀展XIと明治維新150年」

特別公開 薩摩藩 島津斉興公御奉納「金燈籠」一対

2018年4月10日(火) — 6月30日(土)

【拝観料】 大人500円 中高生300円 小人250円  
 ※宝物殿拝観券にて「能面展」(5月23日[水]~31日[木])もご覧いただけます。  
 ※下記の期間中は特別料金となります。

平成30年度「春期京都非公開文化財特別展」

特別公開

重要文化財 「雲龍図屏風」六曲一双 海北友松筆

【期間】 4月27日(金) — 5月6日(日) 9時 — 16時  
 【拝観料】 大人800円 中高生400円  
 【展示物】 重要文化財「雲龍図屏風」  
 重要文化財 太刀「鬼切丸 別名 髭切」  
 重要文化財 太刀「國広」、重要文化財 太刀「師光」  
 重要文化財 太刀「助守」ほか、およそ四十振の刀剣を公開



重要文化財 太刀「鬼切丸 別名 髭切」



寄進状



「雲龍図屏風」六曲一双 海北友松筆

- 史跡御土居の青もみじ拝観とセットとなります。
- 「春期非公開文化財特別展」に関するお問い合わせは、(公財)京都市文化保存協会 TEL 075-754-0120 <http://www.kobunka.com/>

京都文化博物館開館30周年記念 京都文化プロジェクト関係事業



## 北野天満宮 信仰と名宝 — 天神さんの源流 —

2019年2月23日(土) — 4月14日(日)

■前期/2月23日(土) — 3月17日(日)

■後期/3月19日(火) — 4月14日(日)

【開室時間】 10:00 — 18:00  
 ※金曜日は19:30まで ※入場はそれぞれ30分前まで

【休館日】 月曜日 (祝日の場合は開館、翌日休館)

【入場料】 一般 1,400円

【会場】 京都文化博物館 4階・3階展示室

〈主催〉 京都府、京都文化博物館、日本経済新聞社、京都新聞、朝日放送  
 〈共催〉 北野天満宮





北野天満宮

能の華 天神さんご集り

史跡御土居「青もみじ」公開特別展

# 能面展



●会期  
平成30年5月23日(水)~31日(木)  
午前9時~午後3時半(最終受付)

●会場  
北野天満宮「文道会館」

## 【辞令】

退職

北野天満宮 権宮司 加藤 迪夫  
願に依り本職を免ずる  
平成三十年三月三十一日

神社本庁

北野天満宮 出仕 河合善多郎  
願に依り當宮出仕を解く  
平成三十年三月十五日

北野天満宮

## 【採用】

出仕 岡田 稔正(國學院大學神道学専攻科卒)

出仕 堀川 雄矢(國學院大學神道文化学部神道文化学科卒)

出仕 藤田 長英(國學院大學神道文化学部神道文化学科卒)

巫女 田淵 優菜(四月一日付)

北野文化研究所 室長 松原 史(二月一日付)

(四月一日付)

## 【責任役員】

●現職

渡辺 孝史殿(任期 平成二十九年九月一日より平成三十二年八月三十一日迄)

塩尻 良市殿(任期 平成二十九年九月一日より平成三十二年八月三十一日迄)

渡邊 隆夫殿(任期 平成二十九年九月一日より平成三十二年八月三十一日迄)

宮階 有二殿(任期 平成二十九年九月一日より平成三十二年八月三十一日迄)

小石原 満殿(任期 平成二十九年九月一日より平成三十二年八月三十一日迄)

田邊 親男殿(任期 平成二十九年九月一日より平成三十二年八月三十一日迄)

## 【神社総代】

●現職

長嶋 秀樹殿(平成 十四年一月二十二日 就任)

畑 正高殿(平成 十五年六月二十六日 就任)

鈴鹿 且久殿(平成 十五年六月二十六日 就任)

国枝克一郎殿(平成二十一年四月 一 日 就任)

大串 靖殿(平成二十七年三月二十六日 就任)

芦田 友秀殿(平成二十八年六月二十六日 就任)

田中 俊夫殿(平成二十九年一月二十六日 就任)

舞鶴 一雄殿(平成二十九年一月二十六日 就任)

柴田晃一郎殿(平成二十九年一月二十六日 就任)



# 紅梅殿結婚式

## 日本文化の発信地、 紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、『久方の月の桂も折るばかり家の風をも吹かせてしがな』

の和歌を詠み励まされました。

我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であつたと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。



## 火之御子社例祭 六月一日

かみなりよけたいさい

# 雷除大祭

### ●特別授与品の頒布

雷除けのお守・お札を開門の午前五時より特別に授与致します。

このお札は、「北野千体札」と称され、古くは千体限定の授与でしたが、近年はこの日より三日間頒布します。



## 六月三十日午後四時

なごしのおおほらえしき

# 夏越の大祓式

### ●茅の輪をくぐって、 無病息災を祈願！

午後四時から神事を執り行い、神職とともに茅の輪くぐりを行います。茅の輪をくぐって、厄難を祓い落しましょう！



### ●人形・車形でお祓いしましょう

人形に氏名・年齢を記して三度息を吹きかけます。それを身の代わりとして大祓に差し出してお祓いします。また交通安全祈願として、車形もあわせて行いましょう。

※氏子区域の皆様には、氏子総代を通じて形代をお配りします。

どなたでも神事に  
参加できます。

## 御縁日 境内ライトアップ



毎月25日は天神さんの御縁日。  
夜9時まで境内特別ライトアップ！

## 定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）  
季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

## 今昔マップ



## 平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿（遷都より600年の間）は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

- 平安京（大内裏）
- 大極殿（室町時代迄の平安京）
- 京都御所（室町時代以降）

